

川崎市総合計画第1期実施計画 政策体系図

基本政策	政策	施策	事務事業(○は本計画に掲載している主な事務事業)
	政策 3-3	緑と水の豊かな環境をつくりだす	
		施策 3-3-1 協働の取組による緑の創出と育成	
			○ 緑の基本計画推進事業
			○ 都市緑化推進事業
			○ 市民100万本植樹運動事業
			○ パークマネジメント推進事業
			○ 生物多様性推進事業
			身近な公園緑地等の管理運営事業
			緑のボランティアセンター事業
			緑化協議による緑のまちづくりの推進事業
		施策 3-3-2 魅力ある公園緑地等の整備	
			○ 富士見公園整備事業
			○ 等々力緑地再編整備事業
			○ 生田緑地整備事業
			○ 魅力的な公園整備事業
			○ 市営霊園の整備
			○ 公園施設長寿命化事業
			○ 河川環境整備事業
			長期未整備公園緑地の見直し事業
			夢見ヶ崎動物公園にぎわい創出事業
			菅生緑地整備事業
			等々力緑地維持管理事業
			生田緑地維持管理事業
			公園緑地維持管理事業
			公園緑地の適正管理
	街路樹適正管理事業		
施策 3-3-3 多摩丘陵の保全			
	○ 緑地保全事業		
	○ 里山再生事業		
	○ 多摩・三浦丘陵広域連携事業		
	保全緑地管理事業		
	保全管理計画策定事業		
施策 3-3-4 農地の保全・活用と「農」とのふれあいの推進			
	○ 農環境保全・活用事業		
	○ 農業体験提供事業		
	○ 市民・「農」交流機会推進事業		
	都市農業価値発信事業		
施策 3-3-5 多摩川の魅力を活かす総合的な取組の推進			
	○ 多摩川プラン推進事業		
	○ 多摩川市民協働推進事業		
	多摩川緑地維持管理事業		

施策評価シート(第1期実施計画 総括評価)

1 施策の概要					
政策体系上の位置づけ	基本政策(1層)	市民生活を豊かにする環境づくり			
	政策(2層)	緑と水の豊かな環境をつくりだす	計画当初値(H27年)	直近実績値(H29年)	最終目標値(H37年)
	市民実感指標	① 市内にある自然(緑地、河川など)や公園に満足している市民の割合 ②	44.4%	46.5%	50.0%
施策(3層)	施策コード	施策名			
	30301000	協働の取組による緑の創出と育成			
担当	組織コード	所属名			
	531940	建設緑政局緑政部みどりの協働推進課			
関係課	建設緑政局緑政部みどりの企画管理課、環境局総務部環境調整課				
施策の概要	<p>●市民ニーズや社会状況の変化、これまでの取組状況を踏まえて、「緑の基本計画」を改定し、緑あふれる都市環境の向上をめざした計画的な取組や、市民の植樹運動など、市民、事業者、NPO等との協働により、さまざまな緑を創出する取組を進めます。</p> <p>●緑豊かなまちづくりに向けて、身近な生活環境で緑を実感し、地域のそれぞれの公園緑地の課題を解決するために、「管理運営協議会」や「緑の活動団体」など、地域を構成するさまざまな主体との連携、協働のしくみなどを通じて地域の力を最大限に活用した公園緑地の保全を進めます。</p> <p>●公園緑地内に立地し、多くの方々が利用するさまざまな施設について、公園の特性にあわせて、民間の発想や運営ノウハウを活用したパークマネジメントの取組を進めることにより、施設間の効率的な連携や効果的な管理運営など、公園緑地の魅力や利用者サービスの向上を図ります。</p> <p>●また、市域に残された貴重な樹林や農地、水辺地等には、多様な生物が生息しています。地域ごとの特性に応じ、市民・事業者等さまざまな主体と連携して、生き物の生息・生育環境の保全、普及啓発を進めます。</p>				
直接目標	多様な主体との協働、連携により緑を育む				

2 成果指標やその他成果などの状況と成果の分析								
実施計画に位置付けた指標名(指標の説明)			現状値(年度)	目標・実績	H28年度	H29年度	単位等	
成果指標	1	緑のボランティア活動の累計か所数	2,355	目標値(a) 実績値(b)	2,372 2,321	2,380 2,341	箇所	
		指標の説明 公園、街路樹、緑地などにおけるボランティア団体の活動実績数(H26 管理運営協議会及び公園緑地愛護会864か所、街路樹愛護会1,247か所、緑の活動団体登録数244か所)	H26	達成率(b/a) 指標達成度 ※1	97.8% c	98.4% c	↑ 増減	
	2	市民100万本植樹運動による累計植樹本数	61	目標値(a) 実績値(b)	70 80	75 87	万本	
		指標の説明 毎年、緑化指針に基づく植樹や緑化助成制度による思い出記念樹等の植樹、植樹祭などの植樹本数を合計し算出する。H29実績約6万3千本	H26	達成率(b/a) 指標達成度 ※1	114.3% a	116.0% a	↑ 増減	
3	指標の説明		目標値(a) 実績値(b)					
4	指標の説明		目標値(a) 実績値(b)					
数値で把握できる補足指標(指標の説明)				実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1	指標の説明 地域緑化推進地区認定数 平成17年度から地域緑化の普及促進を図るために制度を制定しました。春と秋の年2回、その地区に植えたい花苗等を提供しています。平成28年度までに22地区が認定されています。	実績	20	22	24	か所		
		実績						
定性的な成果 (取組を進めたことで発現した数値では測れない効果などについて記載)		管理運営協議会等の未設置の公園緑地等の設立促進を図るため、町内会等へ制度周知を図る取組等を強化したことなどにより、累計か所数が増加しました。市民100万本植樹運動については、緑化の普及啓発により植樹祭の参加人数が平成28年度の166人から平成29年度は361人に増加しました。						
指標等の成果分析 (指標の目標値達成を阻む外的要因等を含めて記載)		<p>●緑のボランティア活動の累計か所数については、管理運営協議会等の新規設立及び公園緑地愛護会から管理運営協議会への移行の推進によって、公園緑地愛護会以外の活動箇所数は増加となり、一定の成果を上げましたが、活動か所数の目標値を下回りました。</p> <p>●市民100万本植樹運動による累計植樹本数については、緑化協議会を通じた指導と事業者等の努力や思い出記念樹など緑化助成制度の活用による市民の植樹、植樹祭の開催などにより目標を上回りました。</p>						

※1 指標達成度の目安【 a. 目標値以上(100%以上)、b. 現状値以上～目標値未満、c. 目標達成率60%以上～現状値未満、d. 目標達成率60%未満】

※2 指標達成度の目安【 a. 目標値以上(100%以上)、b. 個別設定値(「指標の説明」欄に記載)以上～目標値未満、c. 目標達成率60%以上～個別設定値未満、d. 目標達成率60%未満】

3 施策を構成する主な事務事業の評価									
番号	事務事業コード 事務事業名	サービス分類	事務事業の概要 (簡潔に記載)	主な取組の実績	事業費(千円)		事業の達成度	施策への貢献度	今後の事業の方向性
					予算額	決算額			
					H27年度				
					H28年度				
					H29年度(※決算額は見込)				
1	30301010	その他	緑あふれる都市環境の向上をめざし、「緑の基本計画」の改定に向けた取組を進めます。	●緑の基本計画の改定に向け、庁内会議を7回開催し、3月に改定 ●計画に基づく取組について、実施状況等の整理を行い、環境審議会緑と公園部会へ報告	9,295	7,647	3	A 貢献している	I 現状のま ま継続
	9,221				7,907				
	6,701				6,563				
2	30301020	参加・協働の場	市民・事業者との協働により緑化を推進し、環境の向上に向けたまちづくりを進めます。	●地域緑化推進地区の増加(2か所) ●花と緑の見所事業としての公園整備工事の実施 ●新百合丘緑化推進重点地区計画改定に向けた検証と課題抽出	333,718	75,229	3	A 貢献している	I 現状のま ま継続
	343,331				150,486				
	225,619				162,651				
3	30301030	参加・協働の場	市民・事業者との協働により、市民100万本植樹運動を進めます。	●行政・事業・個人による植樹の実施 ●宮前区鷺沼公園で植樹祭を開催	16,808	8,006	3	A 貢献している	I 現状のま ま継続
	10,654				6,399				
	9,822				6,169				
4	30301040	施設の管理・運営	大規模公園緑地の管理への指定管理者の導入や身近な公園緑地の管理運営方法の検討を進めます。	●富士見公園、生田緑地の指定管理者制度等による適切な管理運営 ●公園緑地における指定管理者導入以外の民間活力導入に関する方針を決定 ●地域との連携や合意形成による公園利用の仕組み(公園でのボール遊び)について、ガイドラインを作成	175,219	152,113	3	A 貢献している	I 現状のま ま継続
	201,554				173,986				
	237,319				212,939				
5	30301050	その他	地域に息づく生き物の生育環境の保全、普及啓発などの取組を進めます。	●「生物多様性かわさき戦略」に基づく事業の推進 ●生物多様性の保全に関する普及啓発・体験学習の実施 ●かわさき生き物マップの運用による市内の生き物情報の発信	3,882	3,586	3	A 貢献している	I 現状のま ま継続
	3,315				2,168				
	3,315				2,386				
6	30301060	参加・協働の場	公園緑地等の維持管理活動を行う市民ボランティア団体である、管理運営協議会等の設立を促進し、団体の活動を支援します。	●管理運営協議会等の設立に向けた町内会等への制度の周知 ●管理運営協議会・公園緑地愛護会合同連絡会での若い世代の管理運営協議会への参画等の事例紹介 ●高津区、宮前区、麻生区で公園利用活性化イベントとして、れあい公園を実施	56,857	56,124	4	B やや貢献している	I 現状のま ま継続
	54,684				54,156				
	56,415				55,266				
7									
8									

4 施策の達成状況			
施策の達成状況 (指標等の成果を中心に施策を構成する事務事業の評価等から総合的に評価)	区分	選択区分	達成状況区分を選択した理由
		A. 順調に推移した (目標を達成した) B. 一定の進捗があった (目標未達成のものがあるが一定の進捗があった) C. 進捗が遅れた (現状を下回るものが多くあった) D. 進捗は大幅に遅れた (現状を大幅に下回った)	B

5 今後の方向性			
今後の事業構成の妥当性 (手段は妥当か?)	区分	選択区分	「事業構成の妥当性を選択した理由」及び「今後の方向性」
		I. 効果的な事業構成である (現状のまま継続する) II. 概ね効果的な構成である (一部見直し等の余地がある) III. あまり効果的な事業構成でない (見直し等の余地が大きい) IV. 事業構成に問題がある (抜本的な見直し等が必要である)	I

平成29年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				実施計画の記載			
	30301010	緑の基本計画推進事業				有			
担当	所属コード	所属名							
	531920	建設緑政局緑政部みどりの企画管理課							
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)				
	—	—	その他	その他	政策推進計画等(策定・進行管理)				
実施形態	<input type="checkbox"/> 市が直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他								
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等) 都市緑地法・川崎市緑の保全及び緑化の推進に関する条例								
総合計画と連携する計画等	改革項目					課題名			
行財政改革プログラムに関連する課題名									
予決算 (単位:千円)	年度	H27年度		H28年度		H29年度			
		予算額	決算額	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額(見込)	
	財源内訳	事業費 A	9,295	7,647	9,221	7,907	4,721	6,701	6,563
		国庫支出金	0	-	0	-	0	0	-
		市債	0	-	0	-	0	0	-
		その他特財	8,555	-	8,555	-	4,055	6,055	-
	一般財源	740	-	666	-	666	646	-	
人件費※ B			23,659	23,659	48,090	48,090	48,090		
総コスト(A+B)			32,880	31,566	52,811	54,791	54,653		
人工(単位:人)			2.79		5.78				

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

計画 (Plan)

政策体系	政策 施策 直接目標	緑と水の豊かな環境をつくりだす 協働の取組による緑の創出と育成 多様な主体との協働、連携により緑を育む
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	市民	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	緑豊かなまちづくり	
事業の内容 (どのような業務内容で、どのような手段で実施しているか)	緑豊かなまちづくりを推進するために、市民ニーズや社会状況の変化等を踏まえて「緑の基本計画」を改定するとともに、取組の推進及び実施状況の把握など、適切な進行管理を行います。	
当該年度の取組内容 (第1期実施計画に記載されている具体的な当該年度の取組)	①「緑の基本計画」の改定 ②「緑の基本計画」に基づく都市公園の整備や緑地の保全、緑化の推進など緑政事業の総合的な取組の推進	
当初計画からの変更箇所 (上記計画に記載されている内容から変更となる取組)		

実施結果 (Do)

上記「当該年度の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った				
取組内容の実績等 (上記「当該年度の取組内容」に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	目標どおり達成できました。 ①については、庁内会議を7回開催し、3月に改定しました。 ②については、進行管理を行うため、各取組の実施状況等について関係課から収集してとりまとめ、環境審議会緑と公園部会へ報告しました。					
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1	説明	目標				
		実績				
2	説明	目標				
		実績				
3	説明	目標				
		実績				
4	説明	目標				
		実績				

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)	少子高齢化や防災・減災、生物多様性、地球温暖化などといった緑をとりまく社会情勢の変化に対応することが求められています。
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 29 年度 <input type="checkbox"/> 未実施
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	平成29年度：川崎市緑の基本計画を改定 平成20年度：川崎市緑の基本計画を改定

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. ない b. ある	a
	評価の理由	緑あふれる都市環境の向上を目指し、市民ニーズや社会情勢の変化など踏まえながら、計画的に取り組む必要があります。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由	現行の緑の基本計画に基づく取組を推進するとともに、計画の改定を行いました。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	b
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性があるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	a
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	b
	評価の理由	今後、国や他都市の動向も踏まえながら民間の活用により、事業効果を上げることが考えられます。	
施策への貢献度	貢献度区分	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A	緑の基本計画に基づく取組の推進により、公園整備、緑地の保全等が進展しており、施策への貢献がありました。



改善 (Action)

方向性区分		実施結果 (Do) や評価 (Check) を踏まえた今後の方向性	
今後の事業の方向性	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	I	緑豊かなまちづくりに向け、改定した計画に基づき、取組を推進していきます。

平成29年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				実施計画の記載			
	30301020	都市緑化推進事業				有			
担当	所属コード	所属名							
	531940	建設緑政局緑政部みどりの協働推進課							
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)				
	—	—		参加・協働の場	—				
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他								
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等) 都市緑地法、川崎市緑の保全及び緑化の推進に関する条例、川崎市緑の保全及び緑化の推進に関する条例施行規則など								
総合計画と連携する計画等	都市計画マスタープラン、防災都市づくり基本計画、環境基本計画、地球温暖化対策推進基本計画、水環境保全計画、緑の基本計画、文化芸術振興計画								
行財政改革プログラムに関連する課題名	改革項目			課題名					
予決算 (単位:千円)	年度	H27年度		H28年度		H29年度			
		予算額	決算額	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額(見込)	
	事業費 A	333,718	75,229	343,331	150,486	343,331	225,619	162,651	
	財源内訳	国庫支出金	0	—	0	—	0	0	—
		市債	0	—	0	—	0	0	—
		その他特財	332,326	—	341,939	—	341,939	224,227	—
		一般財源	1,392	—	1,392	—	1,392	1,392	—
人件費* B			25,016	25,016	23,878	23,878	23,878		
総コスト(A+B)			368,347	175,502	367,209	249,497	186,529		
人工(単位:人)			2.95		2.87				

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

計画 (Plan)

政策体系	政策 緑と水の豊かな環境をつくりだす 施策 協働の取組による緑の創出と育成 直接目標 多様な主体との協働、連携により緑を育む
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	私有地・道路・公園など
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	緑化を行い、花と緑に囲まれた潤いのある街づくりを推進します。
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような手段で実施しているか)	花や緑に囲まれた潤いのある街を目指し、地域緑化推進地区への花苗等の支援や緑のボランティアなどへの活動支援、緑化推進重点地区地区計画の見直し、重点地区内の道路等の再整備などを通じて都市緑化を推進します。
当該年度の取組内容 (第1期実施計画に記載されている具体的な当該年度の取組)	①地域緑化推進地区の認定及び緑のボランティアなどの活動支援の取組(認定数:24地区) ②緑化推進重点地区の取組の推進(8地区) ③かわさき臨海のもりづくり区域の取組の推進
当初計画からの変更箇所 (上記計画に記載されている内容から変更となる取組)	

実施結果 (Do)

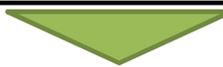
上記「当該年度の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った				
取組内容の実績等 (上記「当該年度の取組内容」に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	目標どおり達成できました。 ②については、花の見所事業として、高津区と多摩区の公園で植栽等の公園整備工事を実施しました。また、新百合ヶ丘緑化重点地区計画改定に向け、既存計画の検証・課題抽出を行いました。 ③については、東扇島地区の沿道環境整備を実施しました。					
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1 成果指標	地域緑化推進地区認定数	目標		22	24	か所
	説明 平成17年度から地域緑化の普及促進を図るために制度を制定しました。春と秋の年2回、その地区に植えたい花苗等を提供しています。平成28年度までに22地区が認定されています。	実績	20	22	24	
2	説明	目標				
		実績				
3	説明	目標				
		実績				
4	説明	目標				
		実績				

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)	樹林地等が開発により減少していく中で、花や緑に囲まれた潤いのある街づくりを行うには、市街地での緑化が不可欠であり、市民生活の質を向上させるためにも、緑化の普及・啓発を行う取組が求められています。
事業の見直し・改善内容	<input type="checkbox"/> 実施 (直近) H 年度 <input checked="" type="checkbox"/> 未実施
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. ない b. ある	a
	評価の理由	花や緑に囲まれた潤いのある街というには、市街地の緑化は依然として不十分であり、普及啓発の観点から花苗やボランティア等への支援及び道路・公園等の緑化整備は今後も必要です。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由	地域緑化推進地区数も増加し、町内会等ボランティア活動団体への花苗支援などを通じて、その関係者に緑化意識の向上等が見受けられます。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	c
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	a
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	a
	評価の理由	地域緑化推進地区での花植、緑の活動団体による緑化活動など、民間の協力がえられる事業については、既に町内会やボランティア団体を中心とした民間活用がなされています。事業手法については、緑化の普及啓発を推進するにあたり、引き続き、地区数や活動団体の増加を図ることで更なる普及啓発・推進につながると考えています。	

施策への 貢献度	貢献度区分		上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A	地域緑化推進地区の増加やボランティア団体との協働での花植え、道路・公園の緑化整備工事を通じて、緑化意識の向上が見受けられるなど施策への貢献がありました。



改善 (Action)

今後の事業の 方向性	方向性区分		実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	I	花や緑に囲まれた潤いのある街を目指し、地域緑化推進地区への花苗等の支援や緑のボランティア団体などへの活動支援、緑化推進重点地区計画の改定、道路・公園等の整備を通じて、引き続き都市緑化を推進していきます。

平成29年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				実施計画の記載			
	30301030	市民100万本植樹運動事業				有			
担当	所属コード	所属名							
	531940	建設緑政局緑政部みどりの協働推進課							
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)				
	平成22年度	平成36年度		参加・協働の場	—				
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他								
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 市独自の制度								
(法令・要綱等)									
総合計画と連携する計画等	緑の基本計画								
行財政改革プログラムに関連する課題名	改革項目			課題名					
予決算 (単位:千円)	年度	H27年度		H28年度		H29年度			
		予算額	決算額	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額(見込)	
	財源内訳	事業費 A	16,808	8,006	10,654	6,399	10,654	9,822	6,169
		国庫支出金	0	-	0	-	0	0	-
		市債	0	-	0	-	0	0	-
		その他特財	14,308	-	8,154	-	8,154	9,822	-
		一般財源	2,500	-	2,500	-	2,500	0	-
	人件費※ B			7,802	7,802	8,902	8,902	8,902	
	総コスト(A+B)			18,456	14,201	19,556	18,724	15,071	
	人工(単位:人)			0.92			1.07		

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

計画 (Plan)

政策体系	政策 施策 直接目標	緑と水の豊かな環境をつくりだす 協働の取組による緑の創出と育成 多様な主体との協働、連携により緑を育む
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	樹木、市民	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	ヒートアイランド現象の緩和や都市景観の向上等に向け、市民・事業者との協働により、市政100周年を迎える平成36年度までに100万本の植樹を目指して運動を展開しています。	
事業の内容 (どのような業務内容で、どのような手段で実施しているか)	市民からの要望で公共的な場所に植えるため、必要な苗木の提供を行っています。また、毎年10月の都市緑化月間中に、植樹祭を開催し、会場周辺の住民、学生、事業者に参加していただき、植樹を行います。	
当該年度の取組内容 (第1期実施計画に記載されている具体的な当該年度の取組)	①行政・事業者・個人の植樹の取組の推進 ②市民100万本植樹運動植樹祭の開催	
当初計画からの変更箇所 (上記計画に記載されている内容から変更となる取組)		

実施結果 (Do)

上記「当該年度の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った						
取組内容の実績等 (上記「当該年度の取組内容」に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	目標どおり達成できました。 ①については、緑化協議を通じて事業者等の建物敷地内の植樹を推進するとともに、思い出記念樹等の民有地緑化助成制度を活用した植樹を推進しました。 ②については、宮前区鷺沼公園で植樹祭を開催し、505本の苗木を植樹しました。							
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)			目標・実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1 成果指標	市民100万本植樹運動における累計植樹本数			目標		70	75	万本
	説明	平成22年度から市民・事業者・行政が植えた樹木の累計植樹本数です。		実績	79	80	87	
2				目標				
	説明			実績				
3				目標				
	説明			実績				
4				目標				
	説明			実績				

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 <small>(国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)</small>	市街化により市内の緑は減少しています。温室効果ガスを少しでも削減し、地球温暖化を防止する観点から市民一人ひとりの緑化への取組を促すための普及啓発活動の一つとして、植樹による緑化の取組が求められています。
事業の見直し・改善内容	<input type="checkbox"/> 実施 (直近) H 年度 <input checked="" type="checkbox"/> 未実施
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. ない b. ある	a
	評価の理由	市街化の進行により市内の緑は減少しています。ヒートアイランド現象の緩和や都市景観の向上、地球温暖化の防止といった観点から市民・事業者へ緑化を促す普及活動として行政が関わっていく必要があります。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	a
	評価の理由	成果指標は目標値以上を達成しています。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	c
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	a
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	a
	評価の理由	植樹の大部分は事業者等の植樹によるもので、既に民間活用がなされています。事業手法についても、緑化指導等で一定の成果をあげ、目標以上の植樹本数を積み上げていますので、今のところ見直しは考えておりません。また、現状の人員体制、費用であれば、これ以上の質の向上は難しいと考えております。	

施策への貢献度	貢献度区分	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A



改善 (Action)

今後の事業の方向性	方向性区分	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	I

平成29年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				実施計画の記載			
	30301040	パークマネジメント推進事業				有			
担当	所属コード	所属名							
	531920	建設緑政局緑政部みどりの企画管理課							
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)				
	—	—		施設の管理・運営	—				
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他								
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等) 指定管理者制度(地方自治法第244条の2)								
総合計画と連携する計画等	まち・ひと・しごと創生総合戦略、緑の基本計画、スポーツ推進計画								
行財政改革プログラムに関連する課題名	改革項目			課題名					
	1(4) 市民サービス向上に向けた民間部門の活用			14 身近な公園緑地の管理運営体制の再構築					
	1(4) 市民サービス向上に向けた民間部門の活用			15 富士見公園の管理運営における更なる民間活力の導入					
	1(4) 市民サービス向上に向けた民間部門の活用			16 等々力緑地の管理運営体制の再構築					
予決算 (単位:千円)	年度	H27年度		H28年度		H29年度			
		予算額	決算額	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額(見込)	
	事業費 A	175,219	152,113	201,554	173,986	200,551	237,319	212,939	
	財源内訳	国庫支出金	0	—	0	—	0	0	—
		市債	0	—	0	—	0	0	—
		その他特財	165,201	—	187,912	—	188,909	229,914	—
		一般財源	10,018	—	13,642	—	11,642	7,405	—
人件費* B			48,082	48,082	66,144	66,144	66,144		
総コスト(A+B)			249,636	222,068	266,695	303,463	279,083		
人工(単位:人)			5.67			7.95			

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

計画 (Plan)

政策体系	政策 緑と水の豊かな環境をつくりだす 施策 協働の取組による緑の創出と育成 直接目標 多様な主体との協働、連携により緑を育む
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	市民
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	3大公園である富士見公園、生田緑地については指定管理者制度により一体的・横断的な管理運営を行い、等々力緑地については緑やスポーツ・レクリエーションの拠点及び災害時の広域避難場所として、本市の広域拠点である小杉駅周辺のまちづくりと連携した施設の再編整備を進めることで、より一層の都市機能の強化と都市景観の魅力向上につなげます。 またその他の公園については民間企業等と連携した管理運営及び地域住民が主体となった管理運営を行うことで公園の魅力を向上させます。
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような手段で実施しているか)	指定管理者制度導入済みである富士見公園、生田緑地については指定管理者と密接に連携を図り、効率的・効果的な公園管理を行い、等々力緑地については「等々力緑地再編整備実施計画」に基づき、緑地内の緑と水、安全・安心の場、動線の再整備、緑地へのアクセス改善など、緑地全体の再整備や、陸上競技場や硬式野球場をはじめとした主要施設の整備を進めます。身近な公園を含むその他の公園については、地域住民が主体となる仕組みとして、公園でのボール遊びの推進及び、民間企業と連携した管理運営手法の検討に取組みます。
当該年度の取組内容 (第1期実施計画に記載されている具体的な当該年度の取組)	①大規模公園緑地の管理運営の推進 ・等々力緑地の指定管理者制度導入に向けた準備 ・富士見公園の指定管理者制度による適切な運営管理 ・生田緑地の指定管理と生田緑地マネジメント会議による適切な運営管理 ②身近な公園緑地の管理運営の推進 ・地域との連携や合意形成による公園利用のしくみづくりの取組(社会実験の実施)
当初計画からの変更箇所 (上記計画に記載されている内容から変更となる取組)	①大規模公園緑地の管理運営の推進 ・等々力緑地における指定管理者制度を含めた新たな民活手法の検討【変更】 ③身近な公園緑地の管理運営の推進 ・民間企業と連携した管理運営手法の検討【新規】

実施結果 (Do)

上記「当該年度の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った				
取組内容の実績等 (上記「当該年度の取組内容」に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	ほぼ目標どおり達成できました。 ①については、指定管理者制度導入以外の民間活力導入に関する方針を決定しました。 ②については、地域との連携や合意形成による公園利用の仕組み(公園でのボール遊び)について社会実験を実施し、ガイドラインを作成しました。					
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1	説明	目標				
		実績				
2	説明	目標				
		実績				

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)	都市公園法の一部改正が2017年6月15日に施行されたことに伴い民間活力による新たな都市公園の整備手法を創設し、公園の再生・活性化を推進する制度が創設されました。 また、等々力緑地につきましては、第2期整備のあり方等について検討を行うため、平成28年4月に等々力緑地陸上競技場整備評価委員会を設置しました。
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 29 年度 <input type="checkbox"/> 未実施
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	平成29年度: 公園における指定管理者導入以外の民間活力導入に関する方針を決定 平成27年度: 富士見公園南側について、指定管理者制度を導入 平成25年度: 生田緑地について、指定管理者制度を導入

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. ない b. ある	b
	評価の理由	指定管理者制度など、民間活力の導入による管理運営を行うことでコスト削減が図れ、また、施設を有効利用した市民ニーズの高い取組を行うことができます。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	a
	評価の理由	民間企業による管理運営を行うことでコスト削減、収益増が見込まれ、利用者意見を反映した様々なイベント等も行えるため、継続して民間活力導入を推進する必要があります。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	c
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性があるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	b
	評価の理由	富士見公園南側及び生田緑地については既に指定管理者制度を導入していますが、市民サービスの向上に向けた事業手法の見直しの余地があります。等々力緑地については再編整備にあわせ、国が進めている官民連携の制度の活用を検討する余地がありません。	

施策への貢献度	貢献度区分	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A

改善 (Action)

今後の事業の方向性	方向性区分	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	I

平成29年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				実施計画の記載			
	30301050	生物多様性推進事業				有			
担当	所属コード	所属名							
	301600	環境局総務部環境調整課							
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)				
	平成26年度	—		その他	政策推進計画等(策定・進行管理)				
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他								
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等) 生物多様性基本法								
総合計画と連携する計画等	都市計画マスタープラン、環境基本計画、地球温暖化対策推進基本計画、水環境保全計画、緑の基本計画、生物多様性かわさき戦略、情報化推進プラン、生田緑地ビジョン、二ヶ領用水総合基本計画、「かわさき臨海のもりづくり」緑化推進計画、かわさき「農」の新生プラン								
行財政改革プログラムに関連する課題名	改革項目			課題名					
予決算 (単位:千円)	年度	H27年度		H28年度		H29年度			
		予算額	決算額	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額(見込)	
	事業費 A	3,882	3,586	3,315	2,168	3,315	3,315	2,386	
	財源内訳	国庫支出金	0	-	0	-	0	0	-
		市債	0	-	0	-	0	0	-
		その他特財	0	-	0	-	0	0	-
		一般財源	3,882	-	3,315	-	3,315	3,315	-
人件費* B			12,466	12,466	12,230	12,230	12,230		
総コスト(A+B)			15,781	14,634	15,545	15,545	14,616		
人工(単位:人)			1.47		1.47				

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

計画 (Plan)

政策体系	政策	緑と水の豊かな環境をつくりだす
	施策	協働の取組による緑の創出と育成
	直接目標	多様な主体との協働、連携により緑を育む
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	市民、事業者、行政	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	多様な緑と水 人や生き物がつながり 都市と自然が共生するまち かわさきを目指します。	
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような手段で実施しているか)	人と生き物、生き物と生き物、情報をつなげることを基本方針として、多様な主体が協働する総合的な生物多様性の保全に向けた取組を推進しています。	
当該年度の取組内容 (第1期実施計画に記載されている具体的な当該年度の取組)	①「生物多様性かわさき戦略」に基づく事業の推進 ②生物多様性の保全に関する普及啓発・体験学習の実施 ③かわさき生き物マップの運用による市内の生き物情報の発信(かわさき生き物マップへの投稿件数:2,000件以上)	
当初計画からの変更箇所 (上記計画に記載されている内容から変更となる取組)		

実施結果 (Do)

上記「当該年度の取組内容」に対する達成度		3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり	4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った			
取組内容の実績等 (上記「当該年度の取組内容」に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)		目標どおり達成できました。 ①の戦略に基づく事業の推進については、専門業者による生き物調査等を実施するとともに、プロジェクト事業の進捗状況を報告書に取りまとめました。 ②の普及啓発等については、各種イベントでのパネル展示やリーフレットの配布、市幼稚園協会の研修会で実施した自然体験学習の調整を行いました。 ③の生き物マップへの投稿件数については、「生き物情報大募集！春・夏・秋・冬に見られる生き物ががし」の参加を小学校や幼稚園等に積極的に呼びかけを行い、2,951件となりました。					
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)		目標・実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1 成果指標	かわさき生き物マップへの投稿件数		目標		2,000	2,000	件
	説明	市民投稿型のGISを用いた生き物情報サイトへの生き物情報の投稿状況	実績	1,546	2,224	2,951	
2			目標				
	説明		実績				
3			目標				
	説明		実績				

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)	平成4年の地球サミットで生物多様性に関する条約が採択され、平成22年の生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)において、平成32年までの国際的目標となる愛知目標が採択されました。平成20年の生物多様性基本法の制定以降、様々な地方公共団体において地域戦略を策定しています。
事業の見直し・改善内容	<input type="checkbox"/> 実施 (直近) H 年度 <input checked="" type="checkbox"/> 未実施
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. ない b. ある	a
	評価の理由	生物多様性に関する世界レベルの会議である第13回生物多様性条約締約国会議(COP13)では、国際的な目標である愛知目標の達成にはまだ課題があるとして、生物多様性の主流化に向けた様々な取組を更に推進していくことが確認され、生物多様性の保全に向けたニーズは世界的にも地域的にもさらに高くなっています。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由	成果指標も目標を達成しています。市内の小学校や幼稚園のほか、大師河原水防センターへの協力依頼により、かわさき生き物マップへの投稿件数は増加傾向にあり、身近な生き物の観察を通じた自然環境の保全意識の浸透が徐々に広がっています。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	a
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	a
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	a
	評価の理由	平成26年3月に策定した生物多様性かわさき戦略に基づく取組を効率的・効果的に行っています。	

施策への 貢献度	貢献度区分	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A

改善 (Action)

今後の事業 の方向性	方向性区分	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	I

平成29年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				実施計画の記載			
	30301060	身近な公園緑地等の管理運営事業				無			
担当	所属コード	所属名							
	531940	建設緑政局緑政部みどりの協働推進課							
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)				
	—	—		参加・協働の場	その他				
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他								
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等) 街区公園等の管理運営に関する要綱、川崎市公園緑地愛護会報奨金交付要綱、川崎市街路樹等愛護会報奨金交付要綱								
総合計画と連携する計画等	都市計画マスタープラン、環境基本計画、緑の基本計画								
行財政改革プログラムに関連する課題名	改革項目			課題名					
	1(1) 多様な主体が共に担うまちづくりの推進			7 緑のまちづくりの推進に向けた市民活動団体の設立・活動支援					
予決算 (単位:千円)	年度	H27年度		H28年度		H29年度			
		予算額	決算額	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額(見込)	
	事業費 A	56,857	56,124	54,684	54,156	54,684	56,415	55,266	
	財源内訳	国庫支出金	0	-	0	-	0	0	-
		市債	0	-	0	-	0	0	-
		その他特財	13,388	-	13,388	-	13,388	16,702	-
	一般財源	43,469	-	41,296	-	41,296	39,713	-	
人件費* B			65,890	65,890	70,054	70,054	70,054		
総コスト(A+B)			120,574	120,046	124,738	126,469	125,320		
人工(単位:人)			7.77		8.42				

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

計画 (Plan)

政策体系	政策	緑と水の豊かな環境をつくりだす
	施策	協働の取組による緑の創出と育成
	直接目標	多様な主体との協働、連携により緑を育む
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	市民	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	市民との協働による公園緑地等の適切な維持管理を実現します。	
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような手段で実施しているか)	公園緑地等の維持管理活動を行う市民ボランティア団体である、管理運営協議会等の設立を促進し、団体の活動を支援します。	
当該年度の取組内容 (第1期実施計画に記載されている具体的な当該年度の取組)	①管理運営協議会等の設立促進 ②若い世代の管理運営協議会への参画促進や幅広い世代の公園利用に向けた取組の推進 ③公園利用活性化イベントの実施	
当初計画からの変更箇所 (上記計画に記載されている内容から変更となる取組)	①管理運営協議会等の設立促進・町内会等に対する制度の周知強化【変更】	

実施結果 (Do)

上記「当該年度の取組内容」に対する達成度	4	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った				
取組内容の実績等 (上記「当該年度の取組内容」に対し、「数値等」でより具体的に実績を示すことができる取組、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	管理運営協議会等の新規設立及び公園緑地愛護会から管理運営協議会への移行の推進によって、公園緑地愛護会以外の活動箇所数は増加となり、一定の成果を上げましたが、活動か所数の目標値を下回りました。 ①については、管理運営協議会等の未設置の公園緑地等の設立促進を図るため、団体の主な母体となる町内会等への制度の周知を図る取組を強化しました。 ②については、管理運営協議会・公園緑地愛護会合同連絡会で、若い世代の管理運営協議会への参画等の事例を紹介しました。 ③については、高津区、宮前区、麻生区の3区で公園利用活性化イベントとしてふれあい公園を実施しました。					
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1 活動指標	公園緑地等ボランティア活動箇所数	目標		2,372	2,380	箇所
	説明 管理運営協議会又は公園緑地愛護会が設立されている公園緑地等の数と、街路樹愛護会が設立され、活動が行われている街路樹ブロック数の和。	実績	2,362	2,321	2,341	
2 活動指標	公園利用活性化イベント開催数	目標		3	3	回
	説明 公園の魅力を発信し、利用を活性化するために実施するイベントの開催数。	実績	3	3	3	
3 活動指標		目標				
	説明	実績				

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)	少子高齢化の進行や地域コミュニティのつながりの希薄化を背景に、管理運営協議会等でも高齢化や世代交代の停滞などの問題が生じています。
事業の見直し・改善内容	<input type="checkbox"/> 実施 (直近) H <input type="checkbox"/> 年度 <input checked="" type="checkbox"/> 未実施
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. ない b. ある	a
	評価の理由	公園緑地等の維持管理活動を行う市民ボランティア団体である管理運営協議会等の設立を促進し、団体の活動を支援することで、市民との協働による公園緑地等の適切な維持管理を実現します。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由	管理運営協議会等の設立促進等を行うことで、活動団体数は徐々に増加しています。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	c
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性があるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	a
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	c
	評価の理由	公園緑地等の維持管理は委託等により実施していますが、市民ボランティア団体である管理運営協議会等が日頃からの維持管理を行うことでコスト削減や質の向上を図っています。	
施策への貢献度	貢献度区分	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	B	公園緑地等の維持管理活動を行う市民ボランティア団体である管理運営協議会等の設立を促進し、団体の活動を支援することで、市民との協働による公園緑地等の適切な維持管理の推進を図ったことから、施策への貢献はありました。



改善 (Action)

今後の事業の方向性	方向性区分	実施結果 (Do) や評価 (Check) を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	I

平成29年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				実施計画の記載			
	30301070	緑のボランティアセンター事業				無			
担当	所属コード	所属名							
	531940	建設緑政局緑政部みどりの協働推進課							
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)				
	—	—		参加・協働の場	その他				
実施形態	<input type="checkbox"/> 市が直接実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input checked="" type="checkbox"/> その他								
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 市独自の制度								
(法令・要綱等)									
総合計画と連携する計画等	都市計画マスタープラン、環境基本計画、緑の基本計画								
行財政改革プログラムに関連する課題名	改革項目			課題名					
予決算 (単位:千円)	年度	H27年度		H28年度		H29年度			
		予算額	決算額	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額(見込)	
	財源内訳	事業費 A	51,839	49,086	52,488	49,667	52,488	50,990	49,838
		国庫支出金	0	-	0	-	0	0	-
		市債	0	-	0	-	0	0	-
		その他特財	51,839	-	52,488	-	52,488	50,990	-
	一般財源	0	-	0	-	0	0	-	
人件費※ B			2,290	2,290	2,330	2,330	2,330		
総コスト(A+B)			54,778	51,957	54,818	53,320	52,168		
人工(単位:人)			0.27			0.28			

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

計画 (Plan)

政策体系	政策	緑と水の豊かな環境をつくりだす
	施策	協働の取組による緑の創出と育成
	直接目標	多様な主体との協働、連携により緑を育む
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	市民、企業、教育機関、等	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	公園や緑地等の維持管理の担い手として、緑のボランティアが活躍できる仕組みを充実させます。	
事業の内容 (どのような業務内容で、どのような手段で実施しているか)	川崎市公園緑地協会の「緑のボランティアセンター」を通して、緑のボランティアの人材育成及び活用、活動支援、交流の場の提供等を推進します。	
当該年度の取組内容 (第1期実施計画に記載されている具体的な当該年度の取組)	①「緑のボランティアセンター」の運営支援 「緑の人材バンク」に登録された人材の活用や機能充実の取組 ②緑のボランティアの育成、活動支援、交流の促進	
当初計画からの変更箇所 (上記計画に記載されている内容から変更となる取組)		

実施結果 (Do)

上記「当該年度の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った					
取組内容の実績等 (上記「当該年度の取組内容」に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	目標どおり達成できました。 ①については、里山ボランティア育成講座など各種講座の講師などとして「緑の人材バンク」に登録された人材を活用しました(人材バンク登録者数 平成29年度:257名)。 ②については、花と緑のまちづくり講座の開催等によるボランティアの育成、緑の活動団体助成金の交付等による活動支援及び交流促進として活動団体の交流イベント(花壇編、里山編)を実施しました。						
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位	
1	活動指標	緑の活動団体登録数	目標		250	253	団体
		説明	実績	256	254	257	
2			目標				
		説明	実績				
3			目標				
		説明	実績				
4			目標				
		説明	実績				

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 <small>(国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)</small>	地域の課題がますます多様化・複雑化していく状況において、限られた行政の資源だけでは、すべての課題に対応することが難しいことから、多様な主体との協働・連携の重要性が増しています。
事業の見直し・改善内容	<input type="checkbox"/> 実施 (直近) H <input type="checkbox"/> 年度 <input checked="" type="checkbox"/> 未実施
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. ない b. ある	b
	評価の理由	他都市においても、自治体の外郭団体が実施主体となっていることがあります。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由	「緑の活動団体」の登録団体数は着実に増加しております。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	c
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	a
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	c
	評価の理由	緑のボランティアに関する取組を市公園緑地協会が一元的に実施することで効果的かつ効率的に事業を推進しています。	
施策への貢献度	貢献度区分	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A	市公園緑地協会に登録された緑のボランティア人材を活用して、市有緑地の維持管理活動を推進するなど、緑の保全施策に貢献しています。



改善 (Action)

方向性区分		実施結果 (Do) や評価 (Check) を踏まえた今後の方向性	
今後の事業の方向性	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	II	緑のボランティアの育成、活動支援、交流の促進が効果的に行われるよう、引き続き、緑のボランティアセンターの既存事業の精査、及び新規事業の検討などを行っていきます。

平成29年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				実施計画の記載			
	30301080	緑化協議による緑のまちづくりの推進事業				無			
担当	所属コード	所属名							
	531940	建設緑政局緑政部みどりの協働推進課							
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)				
	—	—		許認可等	—				
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他								
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等) 都市計画法、都市緑地法、川崎市建築行為及び開発行為に関する総合調整条例、川崎市緑の保全及び緑化の推進に関する条例								
総合計画と連携する計画等	都市計画マスタープラン、環境基本計画、地球温暖化対策推進基本計画、水環境保全計画、緑の基本計画								
行財政改革プログラムに関連する課題名	改革項目		課題名						
予決算 (単位:千円)	年度	H27年度		H28年度		H29年度			
		予算額	決算額	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額(見込)	
	事業費 A	95,187	60,266	50,266	57,081	48,066	339	227	
	財源内訳	国庫支出金	0	—	0	—	0	0	—
		市債	0	—	0	—	0	0	—
		その他特財	94,848	—	49,927	—	47,727	0	—
		一般財源	339	—	339	—	339	339	—
	人件費* B			29,426	29,426	27,622	27,622	27,622	
	総コスト(A+B)			79,692	86,507	75,688	27,961	27,849	
	人工(単位:人)			3.47		3.32			

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

計画 (Plan)

政策体系	政策	緑と水の豊かな環境をつくりだす
	施策	協働の取組による緑の創出と育成
	直接目標	多様な主体との協働、連携により緑を育む
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	事業者	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	市民の健康で快適な生活の確保に寄与することを目的に、緑豊かな環境の形成を図ります。	
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような手段で実施しているか)	「川崎市緑の保全及び緑化の推進に関する条例」等に基づく緑化協議及び都市計画法や「川崎市建築行為及び開発行為に関する総合調整条例」等関係法令に基づく公園・緑地に関する協議を行い、緑豊かなまちづくりの取組を進めます。	
当該年度の取組内容 (第1期実施計画に記載されている具体的な当該年度の取組)	① 条例に基づく緑化協議の実施 ② 開発事業等において設置される公園・緑地に関する協議の実施 ③ 緑化地域制度の検討・調整	
当初計画からの変更箇所 (上記計画に記載されている内容から変更となる取組)	③ 緑化地域制度の検討・調整【削除】	

実施結果 (Do)

上記「当該年度の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った
取組内容の実績等 (上記「当該年度の取組内容」に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	ほぼ目標どおり達成できました。 ①については、共同住宅や事業所等の建築に伴う敷地内の緑化に関する協議を行いました。 ②については、開発事業等において設置される公園等に関する協議を行いました。	

指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)		目標・実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1	説明		目標	/			
			実績				
2	説明		目標	/			
			実績				
3	説明		目標	/			
			実績				
4	説明		目標	/			
			実績				

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)	土地需要が高く年々樹林地が減少傾向にあり、市街化が進行する本市において、緑豊かな環境をつくりだし、市民生活を豊かにしていくためには、市民・事業者・行政が一体となり、協働・連携した都市緑化の推進が引き続き必要です。
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 27 年度 <input type="checkbox"/> 未実施
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	H27年度:川崎市緑の保全及び緑化の推進に関する条例施行規則を一部改正しました。 川崎市緑化指針を一部改正しました。 H26年度:川崎市緑化指針を一部改正しました。 H23年度:川崎市建築行為及び開発行為に関する総合調整条例第9条の規程に基づく公園等整備指針を一部改正しました。

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. ない b. ある	a
	評価の理由	市街化が進行している本市において、緑豊かな環境を作り出し、市民生活を豊かにしていくには、市民・事業者・行政が協働し、都市緑化を推進していく必要があります。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	a
	評価の理由	条例に基づく緑化協議が行われ、都市緑化の推進が図られています。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	a
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性があるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	a
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	a
	評価の理由	必要に応じて緑化指針等の見直しを行い、緑の質の向上を図っています。	
施策への貢献度	貢献度区分	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A	緑化協議を行い、市域の緑が創出されるとともに、開発事業等により設置される公園等の協議を行い、市民が利用できる公園が整備されていることから、施策への貢献はありました。



改善 (Action)

方向性区分		実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性	
今後の事業の方向性	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	I	市街化が進行する本市において、緑豊かな環境をつくりだし、市民生活を豊かにしていくためには、市民・事業者・行政が協働し、都市緑化を推進していくことが必要な為、引き続き緑豊かな環境づくりを推進していきます。

施策評価シート(第1期実施計画 総括評価)

1 施策の概要					
政策体系上の位置づけ	基本政策(1層)	市民生活を豊かにする環境づくり			
	政策(2層)	緑と水の豊かな環境をつくりだす	計画当初値(H27年)	直近実績値(H29年)	最終目標値(H37年)
	市民実感指標	① 市内にある自然(緑地、河川など)や公園に満足している市民の割合 ②	44.4%	46.5%	50.0%
施策(3層)	施策コード	施策名			
	30302000	魅力ある公園緑地等の整備			
担当	組織コード	所属名			
	531960	建設緑政局緑政部みどりの保全整備課			
関係課	建設緑政局緑政部公園事務所、建設緑政局道路河川整備部河川課				
施策の概要	<p>●公園緑地は、都市における緑と水のオープンスペースの中核を成すものであり、都市の安全性の確保、良好な都市環境の形成、スポーツ・レクリエーション活動や地域コミュニティ活動の場、さらに災害発生時の避難地、救援活動拠点など重要な役割を果たしています。このようなことから、うるおいのある豊かな市民生活の実現や新たな社会的ニーズに対応するため、街区公園などの身近な公園を地域の実情に応じて、計画性を持って整備します。再編整備が行われている富士見公園や等々力緑地、多くの団体が活動している生田緑地といった大規模な公園緑地については、その立地特性等を踏まえ、個性と魅力のある整備を進めます。</p> <p>●市内の公園は、直近10年間で増加傾向にある一方、その約6割が開園後30年を経過し、更新時期を迎えています。そのため、予防保全型など適切な管理手法により、計画的な点検と維持管理の取組を進めるとともに、再整備を行う場合は、市民参加による地域のニーズに即した魅力ある公園づくりを進めます。</p> <p>●河川や水路は都市部における貴重なオープンスペースであることから、都市景観の形成や身近な親水施設として、緑豊かで水と親しみ、多様な生物が生息できる空間として、まちづくりと一体的な環境整備を進めます。</p>				
直接目標	豊かな市民生活を実現するため、都市に緑と水のオープンスペースを創出する				

2 成果指標やその他成果などの状況と成果の分析								
実施計画に位置付けた指標名(指標の説明)			現状値(年度)	目標・実績	H28年度	H29年度	単位等	
成果指標	1	一人あたりの公園緑地面積	5.0	目標値①	5.0	5.0	㎡/人	
		指標の説明	H26	実績値②	5.0	5.0		
		建設緑政局が管理している公園・緑地の面積(約7,352,900㎡)/本市の人口(約1,462,100人)(H26末) ※「指標達成度b」の個別設定値:4.9㎡/人(過去の実績を考慮)		達成率(b)/①	100.0%	100.0%	↑	
				指標達成度※2	a	a	維持	
	2	指標の説明		目標値①				
					実績値②			
				達成率(b)/①				
				指標達成度※1				
数値で把握できる補足指標(指標の説明)				実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
	1	遊具を更新した公園数		実績	55	77	44	公園
		公園施設長寿命化計画に基づき遊具の更新を行った公園の箇所数						
定性的な成果		<p>(取組を進めたことで発現した数値では測れない効果などについて記載)</p> <p>●魅力的な公園緑地の整備等に向けて、「等々力陸上競技場第2期整備「整備計画」及び「市営公園整備計画」を策定しました。</p> <p>●魅力的な公園整備の事業において、未長高之面公園及び、上麻生隠れ谷公園のバリアフリー整備を実施したことにより、誰もが利用しやすい公園づくりを進めました。</p>						
指標等の成果分析		<p>(指標の目標値達成を阻む外的要因等を含めて記載)</p> <p>●一人あたりの公園緑地面積については、人口が増加したにも関わらず特別緑地保全地区における用地取得などを進めたことにより、目標を達成したことから一定の成果があったと考えます。</p>						

※1 指標達成度の目安【a. 目標値以上(100%以上)、b. 現状値以上～目標値未満、c. 目標達成率60%以上～現状値未満、d. 目標達成率60%未満】
 ※2 指標達成度の目安【a. 目標値以上(100%以上)、b. 個別設定値(「指標の説明」欄に記載)以上～目標値未満、c. 目標達成率60%以上～個別設定値未満、d. 目標達成率60%未満】

3 施策を構成する主な事務事業の評価									
番号	事務事業コード	サービス分類	事務事業の概要(簡潔に記載)	主な取組の実績	事業費(千円)		事業の達成度	施策への貢献度	今後の事業の方向性
					予算額	決算額			
					H27年度	H28年度			
					H29年度(※決算額は見込)				
1	30302010	その他	都心における総合公園である「富士見公園」の機能回復を図り、施設の再編整備を進めます。	●民間活力導入に向けて民間企業へのサウンディング調査を実施	601,320	473,467	4	B やや貢献している	I 現状のまゝ継続
					28,000	5,416			
					33,000	9,121			
2	30302020	その他	緑やスポーツ・レクリエーションの拠点である等々力緑地について、小杉駅周辺のまちづくりと連携した施設の再編整備を進めます。	●陸上競技場第2期整備の基本方針、整備計画を策定 ●硬式野球場改築工事を再開 ●硬式野球場の工事スケジュールの変更に合わせてスケジュールの見直し等を実施	1,042,643	609,128	4	B やや貢献している	I 現状のまゝ継続
					1,953,149	1,192,673			
					110,663	560,360			

3	30302030	その他	本市最大の緑の拠点である生田緑地を、自然環境を活かした総合公園として整備を進めます。	●「東生田2丁目地区の基本方針」を策定に向けた検討 ●東生田2丁目地区周遊散策路の整備については、隣接地権者の同意が得られないため整備時期を見直し	387,189	58,484	4	B やや貢献している	I 現状のまま継続
	135,778				126,692				
	85,350				4,930				
4	30302040	その他	老朽化の進んだ公園の再整備やバリアフリー化などの取組により、魅力的な公園の整備を進めます。	●稲田公園の設計については、国の考え方に大きな変化があったことから、民活導入等について計画に反映 ●バリアフリー整備(末長高之面公園・上麻生隠れ谷公園) ●(仮称)小田ふれあい公園については、地下埋設物の撤去等に時間を有したことから、平成30年4月末完成	236,954	444,293	3	A 貢献している	I 現状のまま継続
	1,663,028				1,850,519				
	106,673				199,327				
5	30302050	その他	市営霊園において、安定した墓所供給や適切な管理運営を進めます。	●「市営霊園整備計画」を策定 ●早野聖地公園の新規墓所の整備は、整備計画の策定に際して整備数の見直しを行い整備(166基) ●無縁改葬の推進については縁故者調査等を行っているが公告なし ●墓所の再募集(50箇所)	653,917	475,083	4	B やや貢献している	I 現状のまま継続
	531,734				570,239				
	578,234				345,419				
6	30302060	その他	長寿命化の取組により、遊具など公園施設の効果的な維持管理を進めます。	●長寿命化計画に基づく遊具更新(小向第6公園ほか43公園)	245,800	180,273	4	B やや貢献している	II 改善しながら継続
	79,269				54,252				
	287,391				184,578				
7	30302070	その他	環境に配慮した都市景観の形成や賑わいとうるおいのあるまちづくり一環として、水辺に頼りしめる環境づくりを進めます。	●「にぎわいの水辺ゾーン」の整備(84m)	0	0	3	A 貢献している	I 現状のまま継続
	94,730				90,553				
	83,416				48,398				
8	30302080	その他	長期未整備公園緑地の対応方針に基づき、都市計画変更等を進めます。	●都市計画の変更に向けた協議調整を実施(夢見ヶ崎公園、久地公園、菅生緑地、古川公園)	2,160	0	3	B やや貢献している	II 改善しながら継続
	1,966				0				
	1,966				389				

4 施策の達成状況			
施策の達成状況 (指標等の成果を中心に施策を構成する事務事業の評価等から総合的に評価)	区分	選択区分	達成状況区分を選択した理由
		A. 順調に推移した (目標を達成した) B. 一定の進捗があった (目標未達成のものがあるが一定の進捗があった) C. 進捗が遅れた (現状を下回るものが多くあった) D. 進捗は大幅に遅れた (現状を大幅に下回った)	C

5 今後の方向性			
今後の事業構成の妥当性 (手段は妥当か?)	区分	選択区分	「事業構成の妥当性を選択した理由」及び「今後の方向性」
		I. 効果的な事業構成である (現状のまま継続する) II. 概ね効果的な構成である (一部見直し等の余地がある) III. あまり効果的な事業構成でない (見直し等の余地が大きい) IV. 事業構成に問題がある (抜本的な見直し等が必要である)	II

平成29年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				実施計画の記載			
	30302010	富士見公園整備事業				有			
担当	所属コード	所属名							
	531960	建設緑政局緑政部みどりの保全整備課							
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)				
	—	—	その他	—	—				
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他								
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等) 都市計画法、都市公園法								
総合計画と連携する計画等	まち・ひと・しごと創生総合戦略、都市計画マスタープラン、防災都市づくり基本計画、環境基本計画、緑の基本計画、スポーツ推進計画								
行財政改革プログラムに関連する課題名	改革項目		課題名						
予決算 (単位:千円)	年度	H27年度		H28年度		H29年度			
		予算額	決算額	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額(見込)	
	事業費 A	601,320	473,467	28,000	5,416	303,200	33,000	9,121	
	財源内訳	国庫支出金	196,500	—	0	—	90,000	0	—
		市債	353,000	—	0	—	128,000	0	—
		その他特財	0	—	0	—	0	0	—
		一般財源	51,820	—	28,000	—	85,200	33,000	—
人件費* B			7,293	7,293	7,238	7,238	7,238		
総コスト(A+B)			35,293	12,709	310,438	40,238	16,359		
人工(単位:人)			0.86		0.87				

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

計画 (Plan)

政策体系	政策	緑と水の豊かな環境をつくりだす
	施策	魅力ある公園緑地等の整備
	直接目標	豊かな市民生活を実現するため、都市に緑と水のオープンスペースを創出する
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	富士見公園	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	富士見公園において、施設の再編整備を進めることで、公園の本来の機能である緑地や広場の確保に努め、緑のオープンスペースを創出し、都心における総合公園としての機能回復を図ります。	
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような手段で実施しているか)	富士見公園再編整備基本計画を策定するとともに、計画に基づき、施設の再編整備を進めます。	
当該年度の取組内容 (第1期実施計画に記載されている具体的な当該年度の取組)	①北側再編施設(テニスコートなど)の設計 ②プロムナード第1期の整備 ③プロムナード第2期の設計 ④子ども広場北側の整備	
当初計画からの変更箇所 (上記計画に記載されている内容から変更となる取組)	①～④民間活力導入に向けたニーズ等の調査検討【変更】	

実施結果 (Do)

上記「当該年度の取組内容」に対する達成度	4	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った
取組内容の実績等 (上記「当該年度の取組内容」に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	①～④については、再編整備に民間活力の導入を検討することとなったため、設計や整備には至りませんでした。民間活力の導入に向けて検討を行いつつ、富士見公園再編整備基本計画を平成31年度末に策定予定です。	

指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)		目標・実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1	説明	目標	/				
		実績					
2	説明	目標	/				
		実績					
3	説明	目標	/				
		実績					
4	説明	目標	/				
		実績					

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 <small>(国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)</small>	都心のオアシスとして緑地・広場の確保や回遊性の高い歩行空間の確保など、平成22年に策定された富士見周辺地区整備実施計画に基づく、富士見公園の再編整備が求められています。また、新たなステージに向けた緑とオープンスペース政策の展開にかかる平成29年度法改正等を踏まえた対応が必要となっています。
事業の見直し・改善内容	<input type="checkbox"/> 実施 (直近) H 年度 <input checked="" type="checkbox"/> 未実施
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. ない b. ある	b
	評価の理由	公園の再整備において民間活力導入の検討が必要となっています。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由	施設の再編整備にかかる民間活力導入に向け、民間企業へのサウンディングを実施するなど、着実に事業を推進しています。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	b
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性があるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	a
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	a
	評価の理由	整備・管理へ民間活力を導入することにより公園の魅力向上に加え、更なる効率的な公園の整備・管理が可能となります。	

施策への貢献度	貢献度区分	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	B



改善 (Action)

今後の事業の方向性	方向性区分	実施結果 (Do) や評価 (Check) を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	I

平成29年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				実施計画の記載			
	30302020	等々力緑地再編整備事業				有			
担当	所属コード	所属名							
	531997	建設緑政局等々力緑地再編整備室							
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)				
	—	—	その他	—	—				
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他								
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等) 都市計画法、都市公園法、等々力緑地再編整備実施計画								
総合計画と連携する計画等	まち・ひと・しごと創生総合戦略、都市計画マスタープラン、防災都市づくり基本計画、子ども・子育て支援事業計画、環境基本計画、緑の基本計画、スポーツ推進計画								
行財政改革プログラムに関連する課題名	改革項目		課題名						
予決算 (単位:千円)	年度	H27年度		H28年度		H29年度			
		予算額	決算額	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額(見込)	
	財源内訳	事業費 A	1,042,643	609,128	1,953,149	1,192,673	2,925,935	110,663	560,360
		国庫支出金	311,546	—	545,000	—	750,000	0	—
		市債	520,000	—	1,048,000	—	1,665,000	17,000	—
		その他特財	10,000	—	33,074	—	33,074	10,000	—
	一般財源	201,097	—	327,075	—	477,861	83,663	—	
人件費* B			12,635	12,635	47,507	47,507	47,507		
総コスト(A+B)			1,965,784	1,205,308	2,973,442	158,170	607,867		
人工(単位:人)			1.49		5.71				

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

計画 (Plan)

政策体系	政策	緑と水の豊かな環境をつくりだす
	施策	魅力ある公園緑地等の整備
	直接目標	豊かな市民生活を実現するため、都市に緑と水のオープンスペースを創出する
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	等々力緑地	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	緑やスポーツ・レクリエーションの拠点及び災害時の広域避難場所として、本市の広域拠点である小杉駅周辺のまちづくりと連携した施設の再編整備を進めることで、より一層の都市機能の強化と都市景観の魅力向上につなげます。	
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような手段で実施しているか)	「等々力緑地再編整備実施計画」に基づき、緑地内の緑と水、安全・安心の場、動線の再整備、緑地へのアクセス改善など、緑地全体の再整備や、陸上競技場や硬式野球場をはじめとした主要施設の整備を進めます。	
当該年度の取組内容 (第1期実施計画に記載されている具体的な当該年度の取組)	①陸上競技場第2期整備の事業評価結果を踏まえた事業推進 ②硬式野球場の事業推進 ③じゃぶじゃぶ池やその他の公園施設など再整備に向けた調整	
当初計画からの変更箇所 (上記計画に記載されている内容から変更となる取組)	①陸上競技場次期整備計画の策定【変更】	

実施結果 (Do)

上記「当該年度の取組内容」に対する達成度	4	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った
取組内容の実績等 (上記「当該年度の取組内容」に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	①については、陸上競技場第2期整備の基本方針及び整備計画を策定しました。 ②については、工事の一時中断により、当初予定していた平成30年度の完成が難しい状況となりましたが、平成32年度の完成に向け、工事を再開しました。 ③については、硬式野球場の工事スケジュールの変更に合わせたスケジュールの見直し等を行いました。	

指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)		目標・実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1	説明	目標	/				
		実績					
2	説明	目標	/				
		実績					
3	説明	目標	/				
		実績					
4	説明	目標	/				
		実績					

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)	第2期整備のあり方等について検討を行うため、平成28年4月に等々力緑地陸上競技場整備評価委員会を設置しました。
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 29 年度 <input type="checkbox"/> 未実施
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	平成29年度: 等々力陸上競技場第2期整備の整備方針及び整備計画の策定 平成24年度: 等々力硬式野球場整備計画の策定 平成23年度: 等々力緑地再編整備実施計画及び等々力陸上競技場整備計画の策定 平成22年度: 等々力緑地再編整備基本計画の策定 平成21年度: 等々力緑地再編整備基本方針及び等々力緑地再編整備基本構想の策定

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. ない b. ある	b
	評価の理由	都心における総合公園にふさわしい公園とするため、老朽化した施設の更新や、広域避難場所として災害時の活動拠点の整備、防災機能の強化等が必要となります。また、事業を進めるにあたっては、行政による他事業との調整や関係者調整等が必要となります。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	a
	評価の理由	今年度の取組内容について予定通り目的を達成しています。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	b
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性があるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	b
	評価の理由	事業化にあたっては、国が進めている官民連携の制度状況を踏まえ検討する余地はあります。	

施策への 貢献度	貢献度区分		上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	B	平成29年度の取組については、一部事業スケジュールの見直し等はあったものの、再編整備に向けた取組を進めていることから一定程度施策へ貢献しています。



改善 (Action)

今後の事業の 方向性	方向性区分		実施結果 (Do) や評価 (Check) を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	I	事業スケジュールの見直し等がありましたが、「等々力緑地再編整備実施計画」に基づき、硬式野球場等の整備や陸上競技場第2期整備に向けた取組を推進していきます。

平成29年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				実施計画の記載			
	30302030	生田緑地整備事業				有			
担当	所属コード	所属名							
	531960	建設緑政局緑政部みどりの保全整備課							
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)				
	—	—	その他	—	—				
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他								
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等) 都市計画法、都市公園法								
総合計画と連携する計画等	まち・ひと・しごと創生総合戦略、都市計画マスタープラン、防災都市づくり基本計画、子ども・子育て支援事業計画、環境基本計画、水環境保全計画、緑の基本計画、文化芸術振興計画								
行財政改革プログラムに関連する課題名	改革項目		課題名						
予決算 (単位:千円)	年度	H27年度		H28年度		H29年度			
		予算額	決算額	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額(見込)	
	事業費 A	387,189	58,484	135,778	126,692	159,878	85,350	4,930	
	財源内訳	国庫支出金	143,600	—	42,100	—	59,600	25,700	—
		市債	197,000	—	75,000	—	83,000	46,000	—
		その他特財	0	—	0	—	0	0	—
		一般財源	46,589	—	18,678	—	17,278	13,650	—
人件費* B			14,077	14,077	9,402	9,402	9,402		
総コスト(A+B)			149,855	140,769	169,280	94,752	14,332		
人工(単位:人)			1.66		1.13				

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

計画 (Plan)

政策体系	政策 施策 直接目標	緑と水の豊かな環境をつくりだす 魅力ある公園緑地等の整備 豊かな市民生活を実現するため、都市に緑と水のオープンスペースを創出する
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	生田緑地	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	本市最大の緑の拠点である生田緑地の整備を進め、自然環境を活かした総合公園として魅力を向上させます。	
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような手段で実施しているか)	生田緑地内の用地取得を進め、広場や周遊散策路の整備を進めるとともに、都市計画決定から長期にわたって整備を行っていることから、事業の進捗状況や周辺環境の変化等を考慮する必要があり、今後の事業進捗を図るために一部地区の方針を策定し、整備を進めます。	
当該年度の取組内容 (第1期実施計画に記載されている具体的な当該年度の取組)	①「東生田2丁目地区の基本方針」の策定 ②東生田2丁目地区周遊散策路の整備	
当初計画からの変更箇所 (上記計画に記載されている内容から変更となる取組)	②東生田2丁目地区周遊散策路の整備に向けた調整【変更】	

実施結果 (Do)

上記「当該年度の取組内容」に対する達成度	4	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った				
取組内容の実績等 (上記「当該年度の取組内容」に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	①については、東生田2丁目地区の整備に向けて、地域の方々のご意見を伺いながら進める必要があるとの判断から「基本方針」の策定には至りませんでした。今後、意見聴取の方法等の検討を行い、H30年度に「基本方針」の策定を行います。 ②については、整備に当たっては公道の廃止が必要となりますが、隣接地権者の同意が得られず整備が出来ませんでした。今後、隣接地権者との調整を行い、整備時期の見直しを行いました。					
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1	説明	目標	/			
		実績				
2	説明	目標	/			
		実績				
3	説明	目標	/			
		実績				
4	説明	目標	/			
		実績				

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)	市内に残された緑の宝庫として、生田緑地ビジョンに基づいた、自然環境の保全と利用の調整、魅力ある施設の整備・充実を図る必要があります。
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 25 年度 <input type="checkbox"/> 未実施
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	平成25年度 生田緑地、川崎市岡本太郎美術館、川崎市立日本民家園及び川崎市青少年科学館の横断的管理を開始 平成24年度 生田緑地マネジメント会議を設立 平成22年度 生田緑地ビジョンを策定 平成20年度 生田緑地運営の基本的考え方を策定

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. ない b. ある	b
	評価の理由	以前として市内では開発圧が強いことから、市内に残された緑の宝庫として、生田緑地ビジョンに基づいた、自然環境の保全と利用の調整、魅力ある施設の整備・充実を図る必要があります。また、都市公園として供用しているため行政による整備を行う必要があります。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由	用地取得面積、供用開始区域の拡大を図るなど、継続的に生田緑地の整備を推進しています。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	c
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性があるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	a
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	a
	評価の理由	既に調査・検討、設計業務の一部は委託業務を執行することにより効率化が図れていますが、用地買収や工事発注監督業務等の市が直営で行う必要がある業務については適正な規模の人員体制で行っています。	
施策への 貢献度	貢献度区分	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	B	「東生田2丁目地区の基本方針」を策定するなど、魅力ある生田緑地の整備に向けた取組を進めていることから、一定程度の施策への貢献はありました。



改善 (Action)

今後の事業の 方向性	方向性区分	実施結果 (Do) や評価 (Check) を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	I

平成29年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				実施計画の記載				
	30302040	魅力的な公園整備事業				有				
担 当	所属コード	所属名								
	531960	建設緑政局緑政部みどりの保全整備課								
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)					
	—	—	その他	—						
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他									
実施根拠 (法令・要綱等)	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 市独自の制度 都市公園法									
総合計画と連携する計画等	まち・ひと・しごと創生総合戦略、都市計画マスタープラン、子ども・子育て支援事業計画、子ども・若者ビジョン、緑の基本計画、男女平等推進行動計画									
行財政改革プログラムに関連する課題名	改革項目			課題名						
予決算 (単位:千円)	年度	H27年度		H28年度		H29年度				
		予算額	決算額	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額(見込)		
	財源内訳	事業費 A		236,954	444,293	1,663,028	1,850,519	97,917	106,673	199,327
		国庫支出金		18,000	-	26,000	-	18,000	17,000	-
		市債		147,000	-	1,570,000	-	32,000	51,000	-
		その他特財		1	-	1	-	1	1	-
		一般財源		71,953	-	67,027	-	47,916	38,672	-
	人件費* B				46,386	46,386	48,339	48,339	48,339	48,339
	総コスト(A+B)				1,709,414	1,896,905	146,256	155,012	247,666	
	人工(単位:人)				5.47		5.81			

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

計 画 (Plan)

政策体系	政 策	緑と水の豊かな環境をつくりだす
	施 策	魅力ある公園緑地等の整備
	直接目標	豊かな市民生活を実現するため、都市に緑と水のオープンスペースを創出する
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	公園	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	老朽化の進んだ公園の再整備やバリアフリー化などの取組により、公園の魅力を上させます。	
事業の内容 (どのような業務内容で、どのような手段で実施しているか)	老朽化の進んだ公園について、地域のご意見等を踏まえた再整備計画を策定し、公園の再整備を進めるとともに、公園のバリアフリー化整備や新設などを進めます。	
当該年度の取組内容 (第1期実施計画に記載されている具体的な当該年度の取組)	①公園の再整備 ・稲田公園の設計 ②バリアフリー整備 ・末長高之面公園、上麻生隠れ谷公園 ③身近な公園の整備 ・(仮称)小田ふれあい公園	
当初計画からの変更箇所 (上記計画に記載されている内容から変更となる取組)	①公園の再整備 稲田公園の計画策定【変更】	

実施結果 (Do)

上記「当該年度の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った				
取組内容の実績等 (上記「当該年度の取組内容」に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	ほぼ目標どおり達成できました。 ①稲田公園については、公園行政における国の考え方に大きな変化があったことから、民間活力の導入等について稲田公園の計画に反映し、基本計画の取りまとめを行いました。					
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1	説明	目標	/			
		実績				
2	説明	目標	/			
		実績				
3	説明	目標	/			
		実績				
4	説明	目標	/			
		実績				

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 <small>(国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)</small>	「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律」の制定により、都市公園についても公園管理者にバリアフリー化が義務付けられたことから、公園施設のユニバーサルデザイン化を推進する必要があります。
事業の見直し・改善内容	<input type="checkbox"/> 実施 (直近) H 年度 <input checked="" type="checkbox"/> 未実施
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. ない b. ある	b
	評価の理由	高齢化が進行する状況において、誰でも自由に公園を利用できる環境の整備が求められていることから、公園のバリアフリー化を推進する必要があります。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由	ほぼ目標どおりに達成しており、順次公園のバリアフリー化が図られています。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	c
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	a
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	a
	評価の理由	既に設計業務の一部は委託業務を執行することにより効率化が図れていますが、工事発注監督業務等の市が直営で行う必要がある業務については適正な規模の人員体制で行っています。	

施策への 貢献度	貢献度区分	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A



改善 (Action)

今後の事業の 方向性	方向性区分	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	I

平成29年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				実施計画の記載			
	30302050	市営霊園の整備				有			
担当	所属コード	所属名							
	531980	建設緑政局緑政部霊園事務所							
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)				
	—	—	施設の管理・運営	内部管理					
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他								
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等) 都市計画法 墓地、埋葬等に関する法律 川崎市墓地条例・規則 川崎市霊堂条例・規則								
総合計画と連携する計画等	緑の基本計画、情報化推進プラン								
行財政改革プログラムに関連する課題名	改革項目			課題名					
予決算 (単位:千円)	年度	H27年度		H28年度		H29年度			
		予算額	決算額	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額(見込)	
	事業費 A	653,917	475,083	531,734	570,239	460,347	578,234	345,419	
	財源内訳	国庫支出金	0	-	0	-	0	0	-
		市債	17,000	-	36,000	-	13,000	16,000	-
		その他特財	593,410	-	446,267	-	405,850	521,427	-
		一般財源	43,507	-	49,467	-	41,497	40,807	-
人件費※ B			34,768	34,768	34,112	34,112	34,112		
総コスト(A+B)			566,502	605,007	494,459	612,346	379,531		
人工(単位:人)			4.1		4.1				

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

計画 (Plan)

政策体系	政策	緑と水の豊かな環境をつくりだす
	施策	魅力ある公園緑地等の整備
	直接目標	豊かな市民生活を実現するため、都市に緑と水のオープンスペースを創出する
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	市民 (緑ヶ丘霊園・緑ヶ丘霊堂・早野聖地公園)	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	新規墓所の整備等により市民の墓地需要に対応します。また、市営霊園を適切に管理し、公園機能の充実と施設補修を実施することにより、墓所利用者等の利便性を高めます。	
事業の内容 (どのような業務内容で、どのような手段で実施しているか)	墓所需要に対応した、新規墓所の整備、無縁化した墓所の再整備を進めるとともに、利用者の利便性向上に向けた施設補修、霊園・霊堂の適正な管理を実施します。	
当該年度の取組内容 (第1期実施計画に記載されている具体的な当該年度の取組)	①早野聖地公園の新規墓所の整備 ②無縁改葬の推進と墓所の再募集 ③管理費用等の見直しの検討	
当初計画からの変更箇所 (上記計画に記載されている内容から変更となる取組)	④「市営霊園基本計画」の策定【変更】	

実施結果 (Do)

上記「当該年度の取組内容」に対する達成度	4	1. 目標を大きく上回って達成 4. 目標を下回った 2. 目標を上回って達成 5. 目標を大きく下回った 3. ほぼ目標どおり
取組内容の実績等 (上記「当該年度の取組内容」に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	①については、整備計画策定に際して新規墓所の整備数の見直しを行ったため166基となりました。 ②の無縁改葬については、縁故者調査等を行いました。無縁化した墓所がなかったことから公告はしませんでした。また、緑ヶ丘霊園30基、早野聖地公園20基の墓所の再募集を実施しました。 ③については、合葬墓等の墓所の整備に伴う管理費用等のあり方の検討を行いました。 ④については、公平で安定した墓所供給と墓所の循環促進に向けた「市営霊園整備計画」を策定しました。	

指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)			目標・実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1 活動指標	新規墓所の整備数			目標	/	180	180	箇所
	説明	墓所を求める市民の需要に応え、墓所の安定供給を図るために新規墓所を整備する。		実績	194	186	166	
2 活動指標	無縁改葬公告の実施数			目標	/	20	20	件
	説明	無縁化した墓所の縁故者調査を行い無縁改葬公告を実施する。		実績	14	-	-	
3				目標	/			
	説明			実績				
4				目標	/			
	説明			実績				

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)	高齢化の進行により墓所の需要は全国的に高まっています。
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 29 年度 <input type="checkbox"/> 未実施
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	H29年度:「川崎市営霊園整備計画」を策定 H27年度:「川崎市営霊園の整備と管理の方針」を策定 H24年度:市営霊園の今後のあり方について環境審議会に諮問

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. ない b. ある	b
	評価の理由	高齢化や人口増に伴い今後も墓所需要の増大が見込まれます。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由	新規墓所の整備、墓所の再募集を行い着実に成果を上げています。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	c
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性があるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	b
	評価の理由	市営霊園の管理については指定管理者制度を導入しており、適切かつ効率的に管理を実施していますが、墓地需要の高まりに対応するとともに財政負担を少なくして管理運営するために、民間のノウハウや経営能力の活用など更なる指定管理者制度のメリットを活かした市営霊園の運営を行っていく必要があります。	

施策への 貢献度	貢献度区分	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	B 新規墓所の整備、墓所の再募集により市民の墓地需要に対応していること、また、市営霊園を適切に管理し、公園機能の充実と施設補修を実施することにより、墓所利用者等の利便性を高めていることから、施策への一定程度の貢献はありました。

改善 (Action)

今後の事業の 方向性	方向性区分	実施結果 (Do) や評価 (Check) を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	I 高い墓地需要に対応した、新規墓所の整備、無縁化した墓所の再整備を進めるとともに、利用者の利便性向上に向けた施設補修、霊園・霊堂の適正な管理を引き続き実施します。

平成29年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				実施計画の記載			
	30302060	公園施設長寿命化事業				有			
担当	所属コード	所属名							
	531960	建設緑政局緑政部みどりの保全整備課							
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)				
	平成28年	—	施設の管理・運営	—	—				
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他								
実施根拠	<input checked="" type="checkbox"/> 国・県の制度 <input type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等) 都市公園法								
総合計画と連携する計画等	まち・ひと・しごと創生総合戦略、資産マネジメントカルテ、都市計画マスタープラン、子ども・子育て支援事業計画、緑の基本計画、情報化推進プラン、スポーツ推進計画								
行財政改革プログラムに関連する課題名	改革項目		課題名						
予決算 (単位:千円)	年度	H27年度		H28年度		H29年度			
	事業費 A	予算額	決算額	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額(見込)	
	財源内訳	国庫支出金	110,000	—	0	—	100,000	100,000	—
		市債	90,000	—	26,000	—	116,000	116,000	—
		その他特財	0	—	3,000	—	3,000	3,000	—
		一般財源	45,800	—	50,269	—	70,269	68,391	—
	人件費* B			29,256	29,256	32,115	32,115	32,115	
	総コスト(A+B)			108,525	83,508	321,384	319,506	216,693	
	人工(単位:人)			3.45		3.86			

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

計画 (Plan)

政策体系	政策	緑と水の豊かな環境をつくりだす
	施策	魅力ある公園緑地等の整備
	直接目標	豊かな市民生活を実現するため、都市に緑と水のオープンスペースを創出する
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	公園施設	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	市民が安全かつ快適に利用できるよう、長寿命化の取組により、遊具など公園施設の安全確保と機能保全を図ります。	
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような手段で実施しているか)	市民が安全かつ快適に利用できるよう、長寿命化計画に基づく計画的な遊具更新と遊具点検を実施し、公園施設の適切な維持管理を行います。	
当該年度の取組内容 (第1期実施計画に記載されている具体的な当該年度の取組)	長寿命化計画に基づく遊具など公園施設の点検と適切な維持管理 ・王禅寺公園ほか70公園	
当初計画からの変更箇所 (上記計画に記載されている内容から変更となる取組)	長寿命化計画に基づく遊具など公園施設の点検と適切な維持管理 ・小向第6公園ほか43公園	

実施結果 (Do)

上記「当該年度の取組内容」に対する達成度	4	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った				
取組内容の実績等 (上記「当該年度の取組内容」に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	遊具を更新した公園数については、国の交付金の認承減により事業費が確保できなかったため、目標を下回りました。このことについては、引き続き、国に対し財源確保に向けた要望を行っていきます。 更新以外の施設の点検や維持管理については、目標どおり達成できました。					
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1 活動指標	遊具を更新した公園数 説明 公園施設長寿命化計画に基づき遊具の更新を行った公園の箇所数	目標		77	71	公園
		実績	55	77	44	
2	説明	目標				
		実績				
3	説明	目標				
		実績				
4	説明	目標				
		実績				

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)	市民が安全かつ快適に利用できるよう、計画的な遊具更新と遊具点検を実施し、公園施設の適切な維持管理を行う取組が求められています。
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 27 年度 <input type="checkbox"/> 未実施
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	H27年度 川崎市公園施設長寿命化計画策定

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. ない b. ある	a
	評価の理由	市民が安全かつ快適に利用できるよう、計画的な遊具更新と遊具点検を実施し、公園施設の適切な維持管理を行う必要があります。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由	公園施設長寿命化計画に基づき遊具の更新や点検を着実に実施しています。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	c
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	a
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	a
	評価の理由	遊具を安全に安心して利用できるよう、遊具の点検を専門業者に委託するなど、公園施設長寿命化計画に基づき、遊具の更新等を実施しています。	
施策への 貢献度	貢献度区分	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	B	長寿命化計画に基づく施設の点検や維持管理を適切に行っていることから、一定程度の施策への貢献はありました。



改善 (Action)

方向性区分		実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性	
今後の事業の 方向性	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	II	補助金確保に関する国との協議調整を進め、公園施設長寿命化計画に基づき遊具の点検や更新を進めていきます。

平成29年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				実施計画の記載			
	30302070	河川環境整備事業				有			
担当	所属コード	所属名							
	534700	建設緑政局道路河川整備部河川課							
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)				
	平成23年	—		その他	—				
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他								
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 市独自の制度								
(法令・要綱等)									
総合計画と連携する計画等	都市計画マスタープラン、水環境保全計画、緑の基本計画								
行財政改革プログラムに関連する課題名	改革項目			課題名					
予決算 (単位:千円)	年度	H27年度		H28年度		H29年度			
		予算額	決算額	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額(見込)	
	財源内訳	事業費 A	0	0	94,730	90,553	78,120	83,416	48,398
		国庫支出金	0	-	34,600	-	26,000	29,760	-
		市債	0	-	46,000	-	42,000	45,000	-
		その他特財	0	-	0	-	0	0	-
		一般財源	0	-	14,130	-	10,120	8,656	-
	人件費* B			24,168	24,168	22,880	22,880	22,880	
総コスト(A+B)			118,898	114,721	101,000	106,296	71,278		
人工(単位:人)			2.85		2.75				

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

計画 (Plan)

政策体系	政策	緑と水の豊かな環境をつくりだす
	施策	魅力ある公園緑地等の整備
	直接目標	豊かな市民生活を実現するため、都市に緑と水のオープンスペースを創出する
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	市民、河川	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	環境に配慮した都市景観の形成や賑わいとうるおいのあるまちづくりの一環として、水辺に親しめる環境整備づくりを行います。	
事業の内容 (どのような業務内容で、どのような手段で実施しているか)	中原区内で二ヶ領用水から分岐する普通河川洪川において、市民や地域とのパートナーシップにより策定した「洪川整備基本計画」に基づき、洪川の水辺と親しめる環境整備を進めます。	
当該年度の取組内容 (第1期実施計画に記載されている具体的な当該年度の取組)	洪川環境整備の推進 ・にぎわいの水辺ゾーンの整備・完成	
当初計画からの変更箇所 (上記計画に記載されている内容から変更となる取組)		

実施結果 (Do)

上記「当該年度の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った						
取組内容の実績等 (上記「当該年度の取組内容」に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	ほぼ目標どおり達成できました。 ・「にぎわいの水辺ゾーン」の84mについて整備工事を実施しました。							
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)			目標・実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1 活動指標	洪川環境整備工事			目標	/	46	51	%
	説明	普通河川洪川(河川延長2400m)の環境整備工事の進捗率		実績	37	46	51	
2				目標	/			
	説明			実績				
3				目標	/			
	説明			実績				
4				目標	/			
	説明			実績				

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)	渋川の環境整備に向けて市民や地域とのパートナーシップにより策定した「渋川整備基本計画」に基づき、水辺と親しめる環境整備を進めています。
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 22 年度 <input type="checkbox"/> 未実施
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	平成22年度: 渋川整備基本計画を策定

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. ない b. ある	a
	評価の理由	国の河川行政においても、多自然川づくりをはじめ、水辺空間の活用により、川の価値を高めており、本市においても、環境整備への市民ニーズが高いことから、必要性がある事業です。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	a
	評価の理由	確実に環境整備の工事等を推進し、進捗しています。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	c
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性があるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	a
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	a
	評価の理由	本事業の目的は、水辺に親しめる環境整備であり、市が主体的に事業を行う必要がありますが、可能な部分については、委託などの民間活用を実施しています。	
施策への貢献度	貢献度区分	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A	水辺空間を散策できるようにするなど、豊かな市民生活を実現するための環境整備が進んでいることから、施策への貢献がありました。



改善 (Action)

方向性区分		実施結果 (Do) や評価 (Check) を踏まえた今後の方向性	
今後の事業の方向性	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	I	目標は達成されており、次年度以降も引き続き、環境整備を推進していきます。

平成29年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				実施計画の記載			
	30302080	長期未整備公園緑地の見直し事業				無			
担当	所属コード	所属名							
	531960	建設緑政局緑政部みどりの保全整備課							
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)				
	—	—	その他	—	—				
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他								
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等) 都市計画法、都市公園法								
総合計画と連携する計画等	都市計画マスタープラン、緑の基本計画								
行財政改革プログラムに関連する課題名	改革項目			課題名					
予決算 (単位:千円)	年度	H27年度		H28年度		H29年度			
		予算額	決算額	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額(見込)	
	財源内訳	事業費 A	2,160	0	1,966	0	1,966	1,966	389
		国庫支出金	0	-	0	-	0	0	-
		市債	0	-	0	-	0	0	-
		その他特財	0	-	0	-	0	0	-
	一般財源	2,160	-	1,966	-	1,966	1,966	-	
人件費* B			3,562	3,562	3,494	3,494	3,494		
総コスト(A+B)			5,528	3,562	5,460	5,460	3,883		
人工(単位:人)			0.42		0.42				

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

計画 (Plan)

政策体系	政策 施策 直接目標	緑と水の豊かな環境をつくりだす 魅力ある公園緑地等の整備 豊かな市民生活を実現するため、都市に緑と水のオープンスペースを創出する
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	都市計画公園	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	都市計画決定後、長期間未整備の公園緑地について、事業計画の見直しや区域の変更などの検討を進めます。	
事業の内容 (どのような業務内容で、どのような手段で実施しているか)	平成23年1月に策定された長期未整備公園緑地の対応方針に基づき、計画決定区域内の地権者の意向調査や測量などを実施し、庁内関係部局との協議・調整を踏まえて、都市計画変更等を進めます。	
当該年度の取組内容 (第1期実施計画に記載されている具体的な当該年度の取組)	都市計画変更素案の作成 ・夢見ヶ崎公園 ・久地公園 ・菅生緑地	
当初計画からの変更箇所 (上記計画に記載されている内容から変更となる取組)	都市計画変更に向けた協議調整(古川公園)【変更】	

実施結果 (Do)

上記「当該年度の取組内容」に対する達成度	4	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った
取組内容の実績等 (上記「当該年度の取組内容」に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	●都市計画変更については、隣接地権者との境界確定や区域変更への同意が得ることができなかったことなどから、計画変更素案の策定には至りませんでした。今度、境界確定等の諸課題が解決でき次第、都市計画の変更を行います。 ●古川公園については都市計画変更に向けて協議調整を実施しました。	

指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1	説明	目標				
		実績				
2	説明	目標				
		実績				
3	説明	目標				
		実績				
4	説明	目標				
		実績				

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 <small>(国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)</small>	都市計画法運用指針の見直しによって、都市計画公園の決定について、見直し・変更や整理も重視することが新たに位置づけられるなど、社会状況に合わせた取り組みが求められています。
事業の見直し・改善内容 <small>具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載</small>	<input type="checkbox"/> 実施 (直近) H 年度 <input checked="" type="checkbox"/> 未実施

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. ない b. ある	a
	評価の理由	長期未整備の公園緑地の計画区域内には、長期にわたり私権の制限が課せられている市民がいるため、早期の事業の見直しが求められています。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由	個別の公園緑地において、協議調整を実施していることから順次見直しに向けた取組が進んでいます。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	c
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	a
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	a
	評価の理由	既に調査・検討の一部は委託業務を執行することにより効率化が図れているが、都市計画の変更等の市が直営で行う必要がある業務については適正な規模の人員体制で行っています。	

施策への 貢献度	貢献度区分 A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	B	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由 久地公園、菅生緑地及び古川公園に関して、庁内の協議調整の結果、都市計画の見直しの方向性が確認できたことから、一定程度の施策への貢献はありました。
---------------------	--	----------	--



改善 (Action)

今後の事業 の方向性	方向性区分 I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	II	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性 長期間未整備である公園緑地については、地権者はもとより対外的にも説明責任を果たす必要があることから、個別の公園緑地における都市計画変更を進めるとともに、事業推進の基本となる「長期未整備公園緑地の対応方針」の見直しについても検討を進めていきます。
-----------------------	--	-----------	--

平成29年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				実施計画の記載			
	30302090	夢見ヶ崎動物公園にぎわい創出事業				無			
担当	所属コード	所属名							
	531990	建設緑政局緑政部夢見ヶ崎動物公園							
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)				
	—	—	施設の管理・運営	—					
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他								
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 市独自の制度								
(法令・要綱等)									
総合計画と連携する計画等	都市計画マスタープラン、緑の基本計画								
行財政改革プログラムに関連する課題名	改革項目			課題名					
	1(1) 多様な主体が共に担うまちづくりの推進			8 夢見ヶ崎動物公園の効率的な管理運営体制の構築					
予決算 (単位:千円)	年度	H27年度		H28年度		H29年度			
		予算額	決算額	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額(見込)	
	財源内訳	事業費 A	36,003	36,269	35,905	33,857	35,905	36,205	36,360
		国庫支出金	0	-	0	-	0	0	-
		市債	0	-	0	-	0	0	-
		その他特財	1,575	-	1,460	-	1,460	1,760	-
	一般財源	34,428	-	34,445	-	34,445	34,445	-	
人件費※ B			108,968	108,968	87,360	87,360	87,360		
総コスト(A+B)			144,873	142,825	123,265	123,565	123,720		
人工(単位:人)			12.85		10.5				

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

計画 (Plan)

政策体系	政策 施策	緑と水の豊かな環境をつくりだす 魅力ある公園緑地等の整備
	直接目標	豊かな市民生活を実現するため、都市に緑と水のオープンスペースを創出する
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	市民、企業、団体	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	来園者に動物公園を楽しんでいただくとともに、市民、企業、団体から愛され、支えられる動物公園を目指します。	
事業の内容 (どのような業務内容で、どのような手段で実施しているか)	野生動物の展示やイベント等を通じて動物園を楽しんでいただくとともに、市民、企業及び団体等の多様な主体との連携・協働により魅力ある動物園づくりの取組を進めます。	
当該年度の取組内容 (第1期実施計画に記載されている具体的な当該年度の取組)	①「夢見ヶ崎動物公園基本計画」に基づく取組の推進 ②サポーター制度の拡充 ③動物園まつりなどのイベントの実施 ④ホームページ等を活用した情報の発信 ⑤傷病鳥獣保護活動の実施 ⑥環境学習の実施及び職業体験・インターンシップの受入れの実施	
当初計画からの変更箇所 (上記計画に記載されている内容から変更となる取組)	①「夢見ヶ崎動物公園基本計画」の策定【変更】	

実施結果 (Do)

上記「当該年度の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った				
取組内容の実績等 (上記「当該年度の取組内容」に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	目標どおり達成できました。 ①については、「川崎市夢見ヶ崎動物公園基本計画」を策定しました。 ②については、サポーター制度を周知するイベント等を実施した結果、23人、5団体のサポーター登録と1,389,000円(平成29年12月末現在)の寄附の受入がありました。 ④については、平成29年11月からFacebookによる情報発信を開始しました。					
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1 活動指標	動物園まつりなどのイベントの開催数 説明 動物園をより楽しんでいただくとともに、野生動物の魅力や生態を理解していただくイベントとして、春・秋の動物園まつりや動物への年賀状コンクールなどを開催します。	目標	/	4	4	回
		実績	4	3	4	
2	説明	目標	/			
		実績				
3	説明	目標	/			
		実績				
4	説明	目標	/			
		実績				

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 <small>(国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)</small>	平成29年6月の都市公園法の一部改正により、民間の知恵や活力を活かした公園の賑わい創出の促進が求められています。
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 29 年度 <input type="checkbox"/> 未実施
具体的な見直し・改善内容 <small>※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載</small>	平成29年度: 夢見ヶ崎動物公園基本計画を策定 平成23～25年度: 夢見ヶ崎公園魅力発信事業を実施(幸区) 平成22年度: 夢見ヶ崎公園魅力発信基本計画を策定(幸区)

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. ない b. ある	b
	評価の理由	年間来園者数(概数)は、ほぼ横ばい状態ですが、市内唯一の動物園として野生動物の展示を通じた市民サービスの提供や環境学習の場として職業体験・インターンシップの受入れを継続していく必要があります。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由	動物園まつりにおける地域の商店街連合会と連携した動物イラスト入りグッズの販売や動物専門学校と連携した園内清掃活動の実施及びサポーター制度による寄附の受入等、協働の取組を充実させてきています。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	b
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性があるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	a
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	b
	評価の理由	・国内の公立動物園においては、飼育業務の委託化や指定管理者制度の導入を行っている施設があり、今後の管理運営について、検討、整備していく必要があります。 ・協働の取組を進め、来園者サービスの向上を図る必要があります。	

施策への貢献度	貢献度区分	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	B



改善 (Action)

今後の事業の方向性	方向性区分	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	II

平成29年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				実施計画の記載			
	30302100	菅生緑地整備事業				無			
担当	所属コード	所属名							
	531960	建設緑政局緑政部みどりの保全整備課							
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)				
	—	—	その他	—					
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他								
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等) 都市計画法、都市公園法								
総合計画と連携する計画等	まち・ひと・しごと創生総合戦略、都市計画マスタープラン、環境基本計画、水環境保全計画、緑の基本計画								
行政改革プログラムに関連する課題名	改革項目			課題名					
予決算 (単位:千円)	年度	H27年度		H28年度		H29年度			
		予算額	決算額	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額(見込)	
	財源内訳	事業費 A	0	23,860	110,463	71,493	103,000	140,110	34,340
		国庫支出金	0	-	35,400	-	33,000	45,000	-
		市債	0	-	63,000	-	59,000	80,000	-
		その他特財	0	-	0	-	0	0	-
		一般財源	0	-	12,063	-	11,000	15,110	-
人件費* B			4,494	4,494	6,490	6,490	6,490		
総コスト(A+B)			114,957	75,987	109,490	146,600	40,830		
人工(単位:人)			0.53		0.78				

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

計画 (Plan)

政策体系	政策	緑と水の豊かな環境をつくりだす
	施策	魅力ある公園緑地等の整備
	直接目標	豊かな市民生活を実現するため、都市に緑と水のオープンスペースを創出する
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	菅生緑地	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	宮前区市民健康の森である菅生緑地の園路広場等の施設整備を進め、緑地内の自然環境の保全等を図ります。	
事業の内容 (どのような業務内容で、どのような手段で実施しているか)	計画区域内の用地取得を進め、園路及び広場等の整備や既存樹木の保全を図るとともに、今後の整備計画の検討を進めます。	
当該年度の取組内容 (第1期実施計画に記載されている具体的な当該年度の取組)	整備基本計画の素案策定	
当初計画からの変更箇所 (上記計画に記載されている内容から変更となる取組)	事業計画の見直し【変更】	

実施結果 (Do)

上記「当該年度の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った				
取組内容の実績等 (上記「当該年度の取組内容」に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	目標どおり達成できました。 都市計画の事業認可延伸に向け、取組内容の変更を盛り込んだ整備基本計画の策定を行う予定でしたが、地元との調整や県との協議の結果、事業計画の見直しを行い、当初の計画区域での事業認可延伸に向けた計画案をまとめました。					
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1	説明	目標				
		実績				
2	説明	目標				
		実績				
3	説明	目標				
		実績				
4	説明	目標				
		実績				

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 <small>(国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)</small>	計画区域周辺において急激な宅地化が進んでいるため、計画的な用地取得と整備の進捗を図る必要があります。
事業の見直し・改善内容	<input type="checkbox"/> 実施 (直近) H <input type="checkbox"/> 年度 <input checked="" type="checkbox"/> 未実施
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. ない b. ある	a
	評価の理由	依然として市内では開発圧が強く計画区域周辺において急激な宅地化が進んでいるため、計画的な用地取得と整備の進捗を図る必要があります。また、都市公園として供用しているため行政による整備を行う必要があります。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由	継続的に事業を推進していることから、用地取得面積、供用開始区域の拡大が図られています。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	c
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性があるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	a
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	a
	評価の理由	既に調査・検討、設計業務の一部は委託業務を執行することにより効率化が図れているが、用地買収や工事発注監督業務等の市が直営で行う必要がある業務については適正な規模の人員体制で行っている。	

施策への貢献度	貢献度区分	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	B



改善 (Action)

今後の事業の方向性	方向性区分	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	I

平成29年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				実施計画の記載			
	30302110	等々力緑地維持管理事業				無			
担当	所属コード	所属名							
	531960	建設緑政局緑政部みどりの保全整備課							
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)				
	—	—	施設の管理・運営	—					
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他								
実施根拠	<input checked="" type="checkbox"/> 国・県の制度 <input type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等) 都市公園法								
総合計画と連携する計画等	都市計画マスタープラン、環境基本計画、緑の基本計画、等々力緑地再編整備基本計画								
行政改革プログラムに関連する課題名	改革項目			課題名					
予決算 (単位:千円)	年度	H27年度		H28年度		H29年度			
		予算額	決算額	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額(見込)	
	財源内訳	事業費 A	16,335	16,292	13,372	11,282	13,372	10,373	10,049
		国庫支出金	0	-	0	-	0	0	-
		市債	0	-	0	-	0	0	-
		その他特財	16,335	-	13,372	-	13,372	10,373	-
	一般財源	0	-	0	-	0	0	-	
人件費※ B			24,507	24,507	25,626	25,626	25,626		
総コスト(A+B)			37,879	35,789	38,998	35,999	35,675		
人工(単位:人)			2.89		3.08				

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

計画 (Plan)

政策体系	政策	緑と水の豊かな環境をつくりだす
	施策	魅力ある公園緑地等の整備
	直接目標	豊かな市民生活を実現するため、都市に緑と水のオープンスペースを創出する
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	公園施設	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	等々力緑地をスポーツ・レクリエーションの拠点として市民が安全かつ快適に利用できるよう、適切な維持管理の取組を進めます。	
事業の内容 (どのような業務内容で、どのような手段で実施しているか)	再編整備の動向にあわせた施設補修を実施し、等々力緑地の適切な維持管理を行います。	
当該年度の実績内容 (第1期実施計画に記載されている具体的な当該年度の実績)	①等々力緑地の維持管理 ②等々力緑地の再編整備を見据えた施設補修	
当初計画からの変更箇所 (上記計画に記載されている内容から変更となる取組)		

実施結果 (Do)

上記「当該年度の実績内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った
取組内容の実績等 (上記「当該年度の実績内容」に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	目標どおり達成できました。	

指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1	説明	目標	/			
		実績				
2	説明	目標	/			
		実績				
3	説明	目標	/			
		実績				
4	説明	目標	/			
		実績				

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 <small>(国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)</small>	市民が安全かつ快適に利用できるよう、再編整備の動向にあわせた施設補修を実施し、等々力緑地の適切な維持管理を行う取組が求められています。
事業の見直し・改善内容	<input type="checkbox"/> 実施 (直近) H <input type="checkbox"/> 年度 <input checked="" type="checkbox"/> 未実施
具体的な見直し・改善内容 <small>※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載</small>	

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. ない b. ある	a
	評価の理由	市民が安全かつ快適に利用できるよう、等々力緑地を適切に維持管理することが必要です。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由	再編整備の動向にあわせた施設補修を実施し、等々力緑地を適切に維持管理しています。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	c
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	b
	評価の理由	剪定などについては既に委託しているところですが、民間活力と協働し適切な維持管理を推進することによる質の向上について検討していく必要があります。	
施策への貢献度	貢献度区分 A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	B	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由 等々力緑地をスポーツ・レクリエーションの拠点として市民が安全かつ快適に利用できるよう、適切な維持管理の取組を進めるなど、一定程度の施策への貢献はありました。



改善 (Action)

今後の事業の方向性	方向性区分	実施結果 (Do) や評価 (Check) を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	II
		再編整備の動向にあわせた施設補修を実施するとともに、維持管理における民間活力導入も視野に入れて、事業を推進してまいります。

平成29年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				実施計画の記載			
	30302120	生田緑地維持管理事業				無			
担当	所属コード	所属名							
	531960	建設緑政局緑政部みどりの保全整備課							
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)				
	—	—	施設の管理・運営	—					
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他								
実施根拠	<input checked="" type="checkbox"/> 国・県の制度 <input type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等) 都市公園法								
総合計画と連携する計画等	都市計画マスタープラン、環境基本計画、緑の基本計画、生田緑地ビジョン								
行政改革プログラムに関連する課題名	改革項目			課題名					
	2(13) 市民サービス等の再構築			33 生田緑地ばら苑の魅力の向上と管理運営手法のあり方の検討					
予決算 (単位:千円)	年度	H27年度		H28年度		H29年度			
		予算額	決算額	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額(見込)	
	財源内訳	事業費 A	53,111	42,907	44,876	35,325	44,876	44,876	43,568
		国庫支出金	0	-	0	-	0	0	-
		市債	0	-	0	-	0	0	-
		その他特財	24,701	-	24,701	-	24,701	44,876	-
	一般財源	28,410	-	20,175	-	20,175	0	-	
人件費* B			9,752	9,752	17,722	17,722	17,722		
総コスト(A+B)			54,628	45,077	62,598	62,598	61,290		
人工(単位:人)			1.15		2.13				

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

計画 (Plan)

政策体系	政策 施策 直接目標	緑と水の豊かな環境をつくりだす 魅力ある公園緑地等の整備 豊かな市民生活を実現するため、都市に緑と水のオープンスペースを創出する
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	公園施設	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	本市に残された貴重な緑である生田緑地の良好な環境を保つとともに、市民が安全かつ快適に利用できるよう、適切な維持管理を進めます。	
事業の内容 (どのような業務内容で、どのような手段で実施しているか)	指定管理者との協働による管理を実施し、生田緑地の適切な維持管理を行います。	
当該年度の取組内容 (第1期実施計画に記載されている具体的な当該年度の取組)	指定管理者及び市民団体との連携による維持管理の推進	
当初計画からの変更箇所 (上記計画に記載されている内容から変更となる取組)		

実施結果 (Do)

上記「当該年度の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った				
取組内容の実績等 (上記「当該年度の取組内容」に対し、「数値等により具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	目標どおり達成できました。					
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1	説明	目標	/			
		実績				
2	説明	目標	/			
		実績				
3	説明	目標	/			
		実績				
4	説明	目標	/			
		実績				

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 <small>(国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)</small>	市民が安全かつ快適に利用できるよう、指定管理者との協働による管理を実施し、生田緑地の適切な維持管理を行う取組が求められています。
事業の見直し・改善内容	<input type="checkbox"/> 実施 (直近) H <input type="checkbox"/> 年度 <input checked="" type="checkbox"/> 未実施
具体的な見直し・改善内容 <small>※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載</small>	

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. ない b. ある	b
	評価の理由	市民が安全かつ快適に利用できるよう、適切な維持管理を進める必要があります。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由	指定管理者との協働による管理を実施しています。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	c
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性があるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	a
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	a
	評価の理由	指定管理者との協働による管理を実施し、生田緑地の適切な維持管理を行っています。	
施策への貢献度	貢献度区分 A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	B	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由 指定管理者との協働による管理を実施し、生田緑地の適切な維持管理を進めることで一定程度の貢献はあります。



改善 (Action)

方向性区分		実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性	
今後の事業の方向性	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	I	本市に残された貴重な緑である生田緑地の良好な環境を保つとともに、市民が安全かつ快適に利用できるよう、指定管理者との協働による管理を実施し、生田緑地の適切な維持管理を進めてまいります。

平成29年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				実施計画の記載			
	30302130	公園緑地維持管理事業				無			
担当	所属コード	所属名							
	531960	建設緑政局緑政部みどりの保全整備課							
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)				
	—	—	施設の管理・運営	—					
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他								
実施根拠	<input checked="" type="checkbox"/> 国・県の制度 <input type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等) 都市公園法								
総合計画と連携する計画等	環境基本計画、緑の基本計画								
行財政改革プログラムに関連する課題名	改革項目			課題名					
	2(13) 市民サービス等の再構築			32 有料公園施設使用料の見直しの検討					
予決算 (単位:千円)	年度	H27年度		H28年度		H29年度			
		予算額	決算額	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額(見込)	
	財源内訳	事業費 A	831,134	779,883	846,488	787,556	846,488	905,063	723,608
		国庫支出金	0	-	0	-	0	0	-
		市債	15,000	-	23,000	-	23,000	83,000	-
		その他特財	34,629	-	40,561	-	40,561	40,881	-
		一般財源	781,505	-	782,927	-	782,927	781,182	-
人件費※ B			154,251	154,251	176,134	176,134	176,134		
総コスト(A+B)			1,000,739	941,807	1,022,622	1,081,197	899,742		
人工(単位:人)			18.19		21.17				

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

計画 (Plan)

政策体系	政策 施策 直接目標	緑と水の豊かな環境をつくりだす 魅力ある公園緑地等の整備 豊かな市民生活を実現するため、都市に緑と水のオープンスペースを創出する
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	公園施設	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	市民が安全かつ快適に公園緑地を利用できるよう、除草や清掃等を行い、施設の適切な維持管理を進めます。	
事業の内容 (どのような業務内容で、どのような手段で実施しているか)	老朽化した施設の計画的な改修等を実施し、公園緑地の適切な維持管理を行います。	
当該年度の取組内容 (第1期実施計画に記載されている具体的な当該年度の取組)	①樹木の剪定など公園緑地の維持管理 ②プールなど公園施設の補修・更新 ③公園灯など電気施設の維持管理	
当初計画からの変更箇所 (上記計画に記載されている内容から変更となる取組)		

実施結果 (Do)

上記「当該年度の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 4. 目標を下回った 2. 目標を上回って達成 5. 目標を大きく下回った 3. ほぼ目標どおり
取組内容の実績等 (上記「当該年度の取組内容」に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	目標どおり達成できました。	

指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)		目標・実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1	説明	目標	実績				
		実績					
2	説明	目標	実績				
		実績					
3	説明	目標	実績				
		実績					
4	説明	目標	実績				
		実績					

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)	市民が安全かつ快適に利用できるよう、老朽化した施設の計画的な改修等を実施し、公園緑地の適切な維持管理を行う取組が求められています。
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 22 年度 <input type="checkbox"/> 未実施
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	指定管理者制度の導入 H22 緑化センター H18 大師公園・多摩川緑地

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. ない b. ある	b
	評価の理由	老若男女を問わず誰もが利用できる施設として、公園緑地の適切な維持管理を継続的に行っていく必要があります。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由	樹木の剪定や施設の補修・更新などを適切に実施しています。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	c
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性があるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	a
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	b
	評価の理由	剪定などを既に委託しているとともに、一部の公園に指定管理者制度を導入し、効率的な維持管理を行っています。	
施策への貢献度	貢献度区分	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	B	樹木の剪定など維持管理を継続していくとともに、施設の補修や更新の実施など一定程度の施策への貢献はありました。



改善 (Action)

方向性区分		実施結果 (Do) や評価 (Check) を踏まえた今後の方向性	
今後の事業の方向性	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	I	市民が安全かつ快適に利用できるよう、今後も現状の事業内容を維持し、公園緑地の適切な維持管理を推進していきます。

平成29年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				実施計画の記載			
	30302140	公園緑地の適正管理				無			
担当	所属コード	所属名							
	531920	建設緑政局緑政部みどりの企画管理課							
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)				
	—	—	施設の管理・運営	—					
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他								
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等) 都市公園条例								
総合計画と連携する計画等	緑の基本計画、スポーツ推進計画								
行財政改革プログラムに関連する課題名	改革項目			課題名					
予決算 (単位:千円)	年度	H27年度		H28年度		H29年度			
		予算額	決算額	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額(見込)	
	事業費 A	1,164,889	854,882	998,863	912,216	986,168	960,981	852,925	
	財源内訳	国庫支出金	0	-	0	-	0	0	-
		市債	0	-	0	-	0	0	-
		その他特財	709,697	-	481,547	-	481,547	477,096	-
		一般財源	455,192	-	517,316	-	504,621	483,885	-
人件費* B			108,374	108,374	296,358	296,358	296,358		
総コスト(A+B)			1,107,237	1,020,590	1,282,526	1,257,339	1,149,283		
人工(単位:人)			12.78		35.62				

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

計画 (Plan)

政策体系	政策 施策 直接目標	緑と水の豊かな環境をつくりだす 魅力ある公園緑地等の整備 豊かな市民生活を実現するため、都市に緑と水のオープンスペースを創出する
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	市民	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	安全かつ快適に利用できる公園緑地にすることで、利用者へ安らぎと憩いの場を提供します。	
事業の内容 (どのような業務内容で、どのような手段で実施しているか)	公園緑地の適正管理に向けて、許認可業務、運動施設等の利用調整及び財産管理を適切に実施します。また、市民ボランティアと協働した適正な維持管理を行い、ばら苑の一般開放を開催します。	
当該年度の取組内容 (第1期実施計画に記載されている具体的な当該年度の取組)	①公園の許認可業務の適正執行 ②都市公園台帳の適正管理に向けたシステム化及び図面等の更新 ③市公園緑地協会の運営に関する管理監督の実施 ④ばら苑の適正な運営管理 ・一般開放(年2回) ・市民ボランティアとの協働によるバラの育成管理	
当初計画からの変更箇所 (上記計画に記載されている内容から変更となる取組)		

実施結果 (Do)

上記「当該年度の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った				
取組内容の実績等 (上記「当該年度の取組内容」に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	目標どおり達成できました。 ②については、都市公園台帳のシステム化を完了しました。 ④のばら苑の来苑者数については、秋の長雨・台風などにより、悪天候の開園日が続き、来苑者数は減少しました。					
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1 成果指標	ばら苑一般開放時の来苑者数	目標		100,000	100,000	人
	説明 年2回開苑しているばら苑の来苑者数	実績	95,000	102,529	75,112	
2	説明	目標				
		実績				
3	説明	目標				
		実績				
4	説明	目標				
		実績				

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)	都市公園法の一部改正に伴い、都市公園内に保育所等が設置可能になるなど、規制緩和が進む中で公園緑地の有効活用の取り組みが求められています。
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 28 年度 <input type="checkbox"/> 未実施
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	H28年度:公園内の施設適正管理に向け、施設管理用カメラを試験的に大師公園・伊勢町第1公園に設置しました。 H28年度:プール供用期間中の管理運営を適正に行うため、気温と水温との差の基準等を運用マニュアルに追記しました。 H28年度:不測の事態に対応するため、平間児童プールにAEDを1基設置しました。 H26年度:プールの委託業務について、南北2グループに分けていたものを一括にしたことで経費を削減しました。 H26年度:各区道路公園センター許認可事務担当者会議について、会議内容を見直し、課題や許認可の考え方の共有を図りました。

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. ない b. ある	b
	評価の理由	許認可業務、運動施設等の利用調整及び財産管理を今後も適切に実施し、公園緑地の適正管理に努めてまいります。ばら苑の管理運営につきましては、都市公園法の改正やばら苑を含めた生田緑地全体の魅力向上の視点も含めたより効率的・効果的な管理運営手法のあり方を検討する必要があります。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由	秋の長雨・台風などにより、悪天候の開園日が続く、来苑者数は減少しましたが、来苑者アンケートの結果、「大変満足している。」「満足している。」と回答した来園者の割合は、昨年とほぼ変わらない結果でした。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	b
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	c
	評価の理由	ばら苑の管理運営につきましては、都市公園法の改正やばら苑を含めた生田緑地全体の魅力向上の視点も含めたより効率的・効果的な管理運営手法のあり方を検討を進めます。	
施策への貢献度	貢献度区分	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	B	公園緑地の適正管理に向けて、許認可業務、運動施設等の利用調整及び財産管理を適切に行ったことや、生田緑地ばら苑について年2回の一般開放を実施するとともに来苑者アンケートの結果、高い満足度を維持したことなどから、一定程度の施策への貢献はありました。



改善 (Action)

今後の事業の方向性	方向性区分	実施結果 (Do) や評価 (Check) を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	II

平成29年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				実施計画の記載			
	30302150	街路樹適正管理事業				無			
担当	所属コード	所属名							
	531960	建設緑政局緑政部みどりの保全整備課							
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)				
	—	—	その他	—					
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他								
実施根拠	<input checked="" type="checkbox"/> 国・県の制度 <input type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等) 道路法								
総合計画と連携する計画等	緑の基本計画								
行財政改革プログラムに関連する課題名	改革項目			課題名					
予決算 (単位:千円)	年度	H27年度		H28年度		H29年度			
		予算額	決算額	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額(見込)	
	財源内訳	事業費 A	338,479	323,810	336,717	327,662	336,717	337,576	339,274
		国庫支出金	0	-	0	-	0	0	-
		市債	0	-	0	-	0	0	-
		その他特財	0	-	0	-	0	0	-
	一般財源	338,479	-	336,717	-	336,717	337,576	-	
人件費※ B			91,330	91,330	102,752	102,752	102,752		
総コスト(A+B)			428,047	418,992	439,469	440,328	442,026		
人工(単位:人)			10.77		12.35				

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

計画 (Plan)

政策体系	政策	緑と水の豊かな環境をつくりだす
	施策	魅力ある公園緑地等の整備
	直接目標	豊かな市民生活を実現するため、都市に緑と水のオープンスペースを創出する
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	街路樹	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	街路景観の向上など、良好な都市環境を確保するため、街路樹の適正な維持管理を進めます。	
事業の内容 (どのような業務内容で、どのような手段で実施しているか)	都市環境の向上と安全・安心な街路樹の管理を実現するため、計画的な樹木診断と樹木更新を実施し、適正な維持管理を行います。	
当該年度の取組内容 (第1期実施計画に記載されている具体的な当該年度の取組)	①街路樹の適正な維持管理 ②街路樹の樹木診断及び樹木更新の実施	
当初計画からの変更箇所 (上記計画に記載されている内容から変更となる取組)		

実施結果 (Do)

上記「当該年度の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 4. 目標を下回った 2. 目標を上回って達成 5. 目標を大きく下回った 3. ほぼ目標どおり
取組内容の実績等 (上記「当該年度の取組内容」に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	目標どおり達成できました。 ①については、地域特性に即した持続的な維持管理を推進させるため、「街路樹維持管理計画」を策定しました。 ②については、市道上麻生376号線などの街路樹診断や市道白山1号線などの街路樹更新を実施しました。	

指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1	説明	目標	/			
		実績				
2	説明	目標	/			
		実績				
3	説明	目標	/			
		実績				
4	説明	目標	/			
		実績				

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)	都市環境の向上と安全・安心な街路樹の管理を実現するため、計画的な樹木診断と樹木更新を実施し、適正な維持管理を行う取組が求められています。
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 29 年度 <input type="checkbox"/> 未実施
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	H29年度:街路樹維持管理計画を策定

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. ない b. ある	b
	評価の理由	安全・安心な街路樹の管理を実現するためには適正な維持管理が必要です。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由	街路樹の診断や更新を推進しています。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	c
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	b
	評価の理由	街路樹の更新による剪定等の維持管理費の縮減など、街路樹維持管理計画に基づき、より効果的な維持管理を推進する必要があります。	
施策への貢献度	貢献度区分	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	B	街路樹の診断や更新を実施できたことから、一定程度の施策への貢献はあります。



改善 (Action)

方向性区分		実施結果 (Do) や評価 (Check) を踏まえた今後の方向性	
今後の事業の方向性	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	II	街路樹管理計画に基づき、街路樹の計画的な更新やシンボル路線の樹形管理、街路樹管理情報の活用などの取組により、街路樹の適切な維持管理を推進していきます。

施策評価シート(第1期実施計画 総括評価)

1 施策の概要					
政策体系上の位置づけ	基本政策(1層)	市民生活を豊かにする環境づくり			
	政策(2層)	緑と水の豊かな環境をつくりだす	計画当初値(H27年)	直近実績値(H29年)	最終目標値(H37年)
	市民実感指標	① 市内にある自然(緑地、河川など)や公園に満足している市民の割合 ②	44.4%	46.5%	50.0%
施策(3層)	施策コード	施策名			
	30303000	多摩丘陵の保全			
担当	組織コード	所属名			
	531920	建設緑政局緑政部みどりの保全整備課			
関係課	建設緑政局緑政部みどりの協働推進課				
施策の概要	<p>●市内に残された貴重な緑地、樹林地は、生物多様性の保全や市域を特徴づける景観形成などを進める上で、大切な環境資源です。しかし、民間開発や相続などを契機として緑地の減少が見られることから、保全すべき緑地等を適切に評価し、「特別緑地保全地区」の指定を行うなど、緑地保全に関わるさまざまな制度を活用し、効果的な緑地保全を進めます。また、市民や事業者などとの協働による緑地の適切な管理や再生を進め、次世代に継承できる美しい里地・里山づくりを進めます。</p> <p>●首都圏において、貴重な自然環境を有している多摩・三浦丘陵の緑の保全・再生・創出・活用に向けて、関係自治体との連携を深め、広域的な取組を進めます。</p> <p>●黒川、岡上、早野地区に残された、まとまりのある樹林地や農地は、多摩丘陵のつながりを担うとともに動植物の貴重な生息・生育空間となっていることから、貴重な「農ある風景」を次世代に継承していきます。</p>				
直接目標	市域に残された緑地、里山を再生、保全し、次世代に継承する				

2 成果指標やその他成果などの状況と成果の分析								
実施計画に位置付けた指標名(指標の説明)			現状値(年度)	目標・実績	H28年度	H29年度	単位等	
成果指標	1	緑地保全面積	232	目標値(a)	240	272	ha	
		指標の説明	H26	実績値(b)	241	242		
				達成率(b/a)	100.4%	89.0%	↑	
				指標達成度 ※1	a	b	増減	
	2	企業・教育機関等の参加による保全活動累計か所数	4	目標値(a)	4	5	か所	
		指標の説明	H26	実績値(b)	4	5		
				達成率(b/a)	100.0%	100.0%	↑	
				指標達成度 ※1	a	a	増減	
3	指標の説明		目標値(a)					
			実績値(b)					
			達成率(b/a)					
			指標達成度 ※1					
4	指標の説明		目標値(a)					
			実績値(b)					
			達成率(b/a)					
			指標達成度 ※1					
数値で把握できる補足指標(指標の説明)				実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1	企業・教育機関等の参加による保全活動回数			実績	8	8	8	回
	指標の説明	企業・教育機関等が里山保全管理活動に関する協定に基づき活動した回数						
2	指標の説明			実績				
定性的な成果 (取組を進めたことで発現した数値では測れない効果などについて記載)		<p>●緑地を所有する地権者に対し積極的に交渉を行うとともに、制度を知らない地権者に対して制度自体の周知も実施したことにより、今後の緑地保全施策の推進を図ることができました。</p> <p>●生田寒谷特別緑地保全地区に園路を整備したことにより、市民が自然環境に関わる機会を作りました。</p>						
指標等の成果分析 (指標の目標値達成を阻む外的要因等を含めて記載)		<p>●緑地保全面積については、これまでの緑地保全施策により一定の進捗が図られていることや相続による土地の売買が進んでいることなどから、保全の対象とする土地が減少してきている状況にあります。こうした状況において、緑地の地権者との保全に向けた交渉を進めましたが、一部地権者の協力が得られず、目標の達成には至りませんでした。</p> <p>●企業・教育機関等の参加による保全活動累計か所数については、特別緑地保全地区5か所で保全管理活動を継続したことにより目標を達成しました。</p>						

※1 指標達成度の目安【 a. 目標値以上(100%以上)、b. 現状値以上～目標値未満、c. 目標達成率60%以上～現状値未満、d. 目標達成率60%未満】

※2 指標達成度の目安【 a. 目標値以上(100%以上)、b. 個別設定値(「指標の説明」欄に記載)以上～目標値未満、c. 目標達成率60%以上～個別設定値未満、d. 目標達成率60%未満】

3 施策を構成する主な事務事業の評価									
番号	事務事業コード 事務事業名	サービス分類	事務事業の概要 (簡潔に記載)	主な取組の実績	事業費(千円)		事業の達成度	施策への貢献度	今後の事業の方向性
					予算額	決算額			
					H27年度				
					H28年度				
					H29年度(※決算額は見込)				
1	30303010 緑地保全事業	その他	緑地保全の推進により、市域の都市景観の向上、地球温暖化対策、生物多様性の保全等を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> ●特別緑地保全地区等の緑地保全に向けた取組の推進 ●企業や教育機関等の参加による保全活動の実施 	519,553	565,131	3	B やや貢献している	II 改善しながら継続
					1,021,894	854,010			
					983,174	367,623			
2	30303020 里山再生事業	施設の管理・運営	緑と農の3大拠点である黒川、早野、岡上地区の緑地を保全・再生することで里地里山環境を次世代に継承していきます。	<ul style="list-style-type: none"> ●黒川海道特別緑地保全地区の取組の推進 ●岡上地区の市民・大学・小学校との連携による保全活動・環境教育の取組の推進 	8,883	7,003	3	A 貢献している	II 改善しながら継続
					8,145	10,306			
					10,255	8,709			
3	30303030 多摩・三浦丘陵広域連携事業	イベント等	多摩・三浦丘陵の緑地を市域を越えて関係自治体と連携することで、広域的・効果的に緑地保全を進めます。	<ul style="list-style-type: none"> ●関係13自治体による「多摩・三浦丘陵の緑と水景に関する広域連携会議」の開催 ●ウォークラリー等における本取組内容等の広報活動 ●市民・NPO等と連携した保全活動イベントの開催 	0	0	3	A 貢献している	I 現状のまま継続
					2,393	0			
					4,000	3,778			
4									
5									

4 施策の達成状況			
施策の達成状況 (指標等の成果を中心に施策を構成する事務事業の評価等から総合的に評価)	区分	選択区分	達成状況区分を選択した理由
		A. 順調に推移した (目標を達成した) B. 一定の進捗があった (目標未達成のものがあるが一定の進捗があった) C. 進捗が遅れた (現状を下回るものが多くあった) D. 進捗は大幅に遅れた (現状を大幅に下回った)	B

5 今後の方向性			
今後の事業構成の妥当性 (手段は妥当か?)	区分	選択区分	「事業構成の妥当性を選択した理由」及び「今後の方向性」
		I. 効果的な事業構成である (現状のまま継続する) II. 概ね効果的な構成である (一部見直し等の余地がある) III. あまり効果的な事業構成でない (見直し等の余地が大きい) IV. 事業構成に問題がある (抜本的な見直し等が必要である)	II

平成29年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				実施計画の記載			
	30303010	緑地保全事業				有			
担当	所属コード	所属名							
	531960	建設緑政局緑政部みどりの保全整備課							
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)				
	—	—	その他	—	—				
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他								
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等) 都市緑地法、川崎市緑の保全及び緑化の推進に関する条例、緑地保全事業要綱								
総合計画と連携する計画等	都市計画マスタープラン、環境基本計画、水環境保全計画、緑の基本計画								
行財政改革プログラムに関連する課題名	改革項目		課題名						
予決算 (単位:千円)	年度	H27年度		H28年度		H29年度			
		予算額	決算額	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額(見込)	
	財源内訳	事業費 A	519,553	565,131	1,021,894	854,010	1,036,748	983,174	367,623
		国庫支出金	156,081	-	317,920	-	317,920	299,700	-
		市債	288,000	-	615,000	-	615,000	602,000	-
		その他特財	5,773	-	5,474	-	20,328	4,725	-
	一般財源	69,699	-	83,500	-	83,500	76,749	-	
人件費※ B			24,846	24,846	24,378	24,378	24,378		
総コスト(A+B)			1,046,740	878,856	1,061,126	1,007,552	392,001		
人工(単位:人)			2.93		2.93				

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

計画 (Plan)

政策体系	政策 緑と水の豊かな環境をつくりだす 施策 多摩丘陵の保全 直接目標 市域に残された緑地、里山を再生、保全し、次世代に継承する
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	市域に残された緑地
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	緑地保全の推進により、市域の都市景観の向上、地球温暖化対策、生物多様性の保全等を図ります。
事業の内容 (どのような業務内容で、どのような手段で実施しているか)	特別緑地保全地区等の緑地保全施策を推進するとともに、公有地化した緑地の管理施設や斜面安定施設等の整備を実施します。
当該年度の取組内容 (第1期実施計画に記載されている具体的な当該年度の取組)	①特別緑地保全地区等の緑地保全に向けた取組の推進 ・現状調査 ・地権者交渉など ②斜面地の安全対策などの整備 ・橋緑地保全地区ほか ③企業や教育機関等の参加による保全活動の実施
当初計画からの変更箇所 (上記計画に記載されている内容から変更となる取組)	

実施結果 (Do)

上記「当該年度の取組内容」に対する達成度	4	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った				
取組内容の実績等 (上記「当該年度の取組内容」に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	①については、緑地の状況等を調査し、特別緑地保全地区の指定などの緑地保全を進めましたが、一部地権者の協力を得ることができず目標値を下回りました。今後に向けては緑地保全交渉の計画を作成し取組を推進していきます。 ②については、橋特別緑地保全地区の斜面整備、生田寒谷特別緑地保全地区の園路等の施設整備を実施しました。 ③については、企業や教育機関と協働して、特別緑地保全地区で継続的な竹林整備など保全管理活動を実施しました。					
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1 成果指標	緑地保全面積	目標	/	240	272	ha
	説明 特別緑地保全地区や緑の保全地域、緑地保全協定などの緑地保全制度により、緑地保全施策の推進が図られた面積	実績	236	241	242	
2 成果指標	企業・教育機関等の参加による保全活動累計か所数	目標	/	4	5	か所
	説明 企業・教育機関等が保全管理活動に参加協力していただき、里山保全管理活動に関する協定書を締結した緑地数	実績	4	4	5	
3	説明	目標	/			
		実績				
4	説明	目標	/			
		実績				

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 <small>(国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)</small>	市域に残された緑は依然として減少傾向であり、また、生物多様性や景観形成、ヒートアイランド現象の緩和など、緑地保全に対する市民の関心が拡大していることから、引き続き、緑地保全施策の進捗を図る必要があります。
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 26 年度 <input type="checkbox"/> 未実施
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	H26年度:緑地総合評価における評価項目等の見直し

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. ない b. ある	a
	評価の理由	市域に残された樹林地は、環境や社会情勢の変化に伴い、依然として減少傾向を示している。こうしたことから、引き続き生物多様性の観点などからも樹林地等の緑地を保全していく必要があります。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由	緑地の所有者に対し積極的に交渉を行い特別緑地保全地区の指定や緑地保全協定の締結などの緑地保全を進めましたが、一部地権者の協力を得ることができず、目標値を下回りました。今後に向けては、交渉手法の改善を図るとともに、緑地保全交渉の計画を作成し取組を推進していきます。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	c
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	a
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	a
	評価の理由	公有地化した緑地の管理や施設整備設計等、可能な範囲で民間委託を実施していますが、緑地の保全を図るには、緑地所有者の理解と協力が必要なため、引き続き、地道に交渉を継続する必要があります。	

施策への貢献度	貢献度区分	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	B



改善 (Action)

今後の事業の方向性	方向性区分	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	II

平成29年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				実施計画の記載			
	30303020	里山再生事業				有			
担当	所属コード	所属名							
	531940	建設緑政局緑政部みどりの協働推進課							
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)				
	—	—	施設の管理・運営	—					
実施形態	<input type="checkbox"/> 市が直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他								
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 市独自の制度								
(法令・要綱等)									
総合計画と連携する計画等	都市計画マスタープラン、環境基本計画、水環境保全計画、緑の基本計画								
行財政改革プログラムに関連する課題名	改革項目			課題名					
予決算 (単位:千円)	年度	H27年度		H28年度		H29年度			
		予算額	決算額	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額(見込)	
	財源内訳	事業費 A	8,883	7,003	8,145	10,306	17,402	10,255	8,709
		国庫支出金	0	-	0	-	0	0	-
		市債	0	-	0	-	0	0	-
		その他特財	6,232	-	8,145	-	8,198	2,760	-
	一般財源	2,651	-	0	-	9,204	7,495	-	
人件費* B			4,410	4,410	4,326	4,326	4,326		
総コスト(A+B)			12,555	14,716	21,728	14,581	13,035		
人工(単位:人)			0.52			0.52			

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

計画 (Plan)

政策体系	政策	緑と水の豊かな環境をつくりだす
	施策	多摩丘陵の保全
	直接目標	市域に残された緑地、里山を再生、保全し、次世代に継承する
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	市民、緑地	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	黒川・早野・岡上の緑地を適正に保全し、里地里山環境を次世代に継承していきます。	
事業の内容 (どのような業務内容で、どのような手段で実施しているか)	緑と農の3大拠点である黒川、早野、岡上地区の緑地を地域住民や里山ボランティア等との協働により、良好な動植物の育成空間として再生することで、里地里山環境を次世代に継承していきます。	
当該年度の実施内容 (第1期実施計画に記載されている具体的な当該年度の実施内容)	①黒川海道特別緑地保全地区の取組の推進 ・「緑地保全基本計画」に基づく取組の推進 ・里山の保全・再生 ・体験学習等の実施 ②岡上地区の市民・大学・小学校との連携による保全活動・環境教育の取組の推進 ③早野地区における都市農地、里地里山の保全と活用による価値向上と活性化に向けた取組の推進	
当初計画からの変更箇所 (上記計画に記載されている内容から変更となる取組)		

実施結果 (Do)

上記「当該年度の実施内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った				
取組内容の実績等 (上記「当該年度の実施内容」に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	目標どおり達成できました。 ①については、里山保全の体験イベント等を実施するなど、地元農業者と連携した緑地保全の取組を実施しました。 ②については、岡上地区の大学・小学校において環境教育を2回実施しました。 ③については、早野地区地域活性化会議で地元団体等と活性化に向けた取組について意見交換を行いました。					
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1	説明	目標				
		実績				
2	説明	目標				
		実績				
3	説明	目標				
		実績				
4	説明	目標				
		実績				

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)	特別緑地保全地区等の公有地化された緑地が増える中で、生物多様性に配慮した適切な緑地の保全が必要とされており、市民協働による管理体制の構築が重要となっています。
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 27 年度 <input type="checkbox"/> 未実施
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	H27年度:農地を含めた事業を展開していたが、特別緑地保全地区の公有化が進んだことにより、緑地に特化した施策に見直しました。

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. ない b. ある	a
	評価の理由	開発等により市内の緑地は減少しており、緑と農の3大拠点である黒川、早野、岡上の緑地の保全の必要性は薄れていません。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由	リーディング事業対象地区である黒川地区において、「緑地保全基本計画」に基づく取組の推進をしました。また、他の地区では、教育機関等との連携による維持管理活動や環境学習を実施しました。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	c
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性があるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	a
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	a
	評価の理由	民間活用によりコスト削減効果が見込まれる業務については既に民間へ委託しています。	
施策への 貢献度	貢献度区分	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A	黒川地区においては、地元農業者と連携した緑地保全の取り組みを推進しており、他地区においても、教育機関等の連携による維持管理活動を実施しており、緑地保全施策に貢献しています。



改善 (Action)

方向性区分		実施結果 (Do) や評価 (Check) を踏まえた今後の方向性	
今後の事業の 方向性	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	II	黒川地区において、作成した基本計画に基づき、緑のボランティアの参画拡大を推進していきます。また、他地区においても、教育機関等との連携によって維持管理活動を実施し、緑の保全施策を進めていきます。

平成29年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				実施計画の記載			
	30303030	多摩・三浦丘陵広域連携事業				有			
担当	所属コード	所属名							
	531940	建設緑政局緑政部みどりの協働推進課							
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)				
	—	—		イベント等	—				
実施形態	<input type="checkbox"/> 市が直接実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他								
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 市独自の制度								
総合計画と連携する計画等	環境基本計画、水環境保全計画、緑の基本計画								
行財政改革プログラムに関連する課題名	改革項目			課題名					
予決算 (単位:千円)	年度	H27年度		H28年度		H29年度			
		予算額	決算額	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額(見込)	
	財源内訳	事業費 A	0	0	2,393	0	2,393	4,000	3,778
		国庫支出金	0	-	0	-	0	0	-
		市債	0	-	0	-	0	0	-
		その他特財	0	-	0	-	0	0	-
	一般財源	0	-	2,393	-	2,393	4,000	-	
人件費* B			6,530	6,530	6,406	6,406	6,406		
総コスト(A+B)			8,923	6,530	8,799	10,406	10,184		
人工(単位:人)			0.77		0.77				

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

計画 (Plan)

政策体系	政策 施策 直接目標	緑と水の豊かな環境をつくりだす 多摩丘陵の保全 市域に残された緑地、里山を再生、保全し、次世代に継承する
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	市民及び県民、都民	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	多摩・三浦丘陵の緑と水の保全・再生・創出・活用について関係する自治体と連携することにより効果的に検討し、市域を越えた広域的な取組を推進します。	
事業の内容 (どのような業務内容で、どのような手段で実施しているか)	多摩・三浦丘陵の緑と水の保全・再生・創出・活用について関係する自治体と連携して検討・推進するため、会議、ウォーキングイベント、シンポジウム等による企画運営を行います。	
当該年度の取組内容 (第1期実施計画に記載されている具体的な当該年度の取組)	①関係13自治体による「多摩・三浦丘陵の緑と水景に関する広域連携会議」の開催 ②シンポジウムやウォーキングラリーなど広報イベントの実施 ③市民・NPO等と連携した保全活動イベントの開催	
当初計画からの変更箇所 (上記計画に記載されている内容から変更となる取組)		

実施結果 (Do)

上記「当該年度の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った				
取組内容の実績等 (上記「当該年度の取組内容」に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	①については、丘陵保全に必要な諸施策を広域的かつ効果的に検討するために会議(本会議、ワーキング会議、分科会)を開催しました。 ②については、多摩三浦丘陵の魅力を発信するためのイベントとしてウォーキングラリーを開催しました。 ③については、多摩・三浦丘陵の緑と水景を「たのしむ」「まなぶ」「まもる!」を体験するイベントとして保全活動イベントを開催しました。					
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1 活動指標	会議開催数	目標		7	7	回
	説明 参画13自治体による会議の開催回数	実績	6	10	8	
2 活動指標	シンポジウムやウォーキングラリーなどのイベントの実施数	目標		2	2	回
	説明 保全活動イベント、ウォーキングラリー、シンポジウムなどのイベント実施回数	実績	2	2	2	
3	説明	目標				
		実績				
4	説明	目標				
		実績				

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 <small>(国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)</small>	多摩・三浦丘陵の豊かで連続的な自然環境が、首都圏の緑の骨格を形成しており、自然環境の保全を効果的に進めるためには、自治体の枠を超えた広域的な連携が不可欠であり、国土交通省首都圏白書に本取組が紹介されるなど国からも動向が注目されています。
事業の見直し・改善内容	<input type="checkbox"/> 実施 (直近) H 年度 <input checked="" type="checkbox"/> 未実施
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. ない b. ある	a
	評価の理由	13自治体が連携して多摩・三浦丘陵の緑地保全等について話し合いを行い、市民等へ取組内容等の広報を行うことは多摩・三浦丘陵の緑地、里山を再生、保全し、次世代に継承する上で大変重要です。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由	会議やイベントを目標通り実施するとともに、市民等へ事業の取組内容等の広報を行い、着実に成果を上げています。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	c
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	c
	評価の理由	本事業の会議運営等は業者に委託しております。事業手法については、会議回数を減らすなどの見直しにより経費を削減しつつも事業の成果が上がるよう取組を実施しています。	
施策への貢献度	貢献度区分	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A	13自治体との多摩・三浦丘陵の緑地保全等の広域的な取組の推進によって、市域に残された緑地、里山を再生、保全し、次世代へ継承していることから、施策に貢献しています。



改善 (Action)

今後の事業の方向性	方向性区分	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	I	多摩・三浦丘陵における市域に残された緑地、里山を再生、保全し、次世代へ継承していくためには、13自治体の連携により継続的に緑地保全等の取組を行う必要があることから、引き続き、効率的かつ効果的な会議運営及びイベント等の実施を行います。

平成29年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				実施計画の記載			
	30303040	保全緑地管理事業				無			
担当	所属コード	所属名							
	531960	建設緑政局緑政部みどりの保全整備課							
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)				
	—	—	施設の管理・運営	—					
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他								
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等) 都市緑地法、都市公園法、都市公園条例								
総合計画と連携する計画等	環境基本計画、水環境保全計画、緑の基本計画								
行財政改革プログラムに関連する課題名	改革項目			課題名					
予決算 (単位:千円)	年度	H27年度		H28年度		H29年度			
		予算額	決算額	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額(見込)	
	財源内訳	事業費 A	46,592	45,557	51,332	49,830	51,332	47,632	46,516
		国庫支出金	0	-	0	-	0	0	-
		市債	0	-	0	-	0	0	-
		その他特財	44,260	-	49,000	-	49,000	45,300	-
	一般財源	2,332	-	2,332	-	2,332	2,332	-	
人件費※ B			18,402	18,402	27,622	27,622	27,622		
総コスト(A+B)			69,734	68,232	78,954	75,254	74,138		
人工(単位:人)			2.17		3.32				

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

計画 (Plan)

政策体系	政策 施策 直接目標	緑と水の豊かな環境をつくりだす 多摩丘陵の保全 市域に残された緑地、里山を再生、保全し、次世代に継承する
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	保全緑地	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	市域に残された緑地、里山を再生、保全し、次世代に継承します。	
事業の内容 (どのような業務内容で、どのような手段で実施しているか)	保全緑地などについて、市民協働の手法を取り入れながら、植生管理や安全管理など適正な管理を進めます。	
当該年度の取組内容 (第1期実施計画に記載されている具体的な当該年度の取組)	①保全緑地の管理施設等の補修、更新 ②保全緑地の樹木等の維持管理	
当初計画からの変更箇所 (上記計画に記載されている内容から変更となる取組)		

実施結果 (Do)

上記「当該年度の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った				
取組内容の実績等 (上記「当該年度の取組内容」に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	目標どおり達成できました。 ①については、保全緑地における老朽化した柵などの施設の補修を行いました。 ②については、保全緑地における樹木の萌芽更新や林内草刈などの維持管理を行いました。					
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1	説明	目標	/			
		実績				
2	説明	目標	/			
		実績				
3	説明	目標	/			
		実績				
4	説明	目標	/			
		実績				

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 <small>(国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)</small>	保全が図られた緑地は、適切な維持管理を行う必要があることから、市民や企業と連携を図りながら、市の役割に基づく管理を効果的に進めていく必要があります。
事業の見直し・改善内容	<input type="checkbox"/> 実施 (直近) H <input type="checkbox"/> 年度 <input checked="" type="checkbox"/> 未実施
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. ない b. ある	b
	評価の理由	保全が図られた緑地は、適切な維持管理を行う必要があることから、引き続き、市民や企業との連携を図りながら、市の役割に基づく管理を効果的に進めていく必要があります。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由	市民や企業との連携を踏まえながら、行政で行うべき必要な維持管理を行っています。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	b
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	a
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	a
	評価の理由	保全施策の推進により、保全が図られた緑地は増加していることから、引き続き、市民や企業との連携を図りながら、効果的な維持管理を行う必要があります。	
施策への貢献度	貢献度区分	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A	連携している市民や企業からの要望等を踏まえながら、効果的な維持管理を行ったことから、施策への貢献はありました。



改善 (Action)

方向性区分		実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性	
今後の事業の方向性	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	I	保全が図られた緑地は増加しておりますが、市民や企業等との連携により、引き続き、効果的な維持管理を図っていきます。

平成29年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				実施計画の記載			
	30303050	保安全管理計画策定事業				無			
担当	所属コード	所属名							
	531940	建設緑政局緑政部みどりの協働推進課							
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)				
	—	—		参加・協働の場	—				
実施形態	<input type="checkbox"/> 市が直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他								
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等) 川崎市緑の保全及び緑化の推進に関する条例(14条)								
総合計画と連携する計画等	都市計画マスタープラン、環境基本計画、緑の基本計画								
行財政改革プログラムに関連する課題名	改革項目			課題名					
予決算 (単位:千円)	年度	H27年度		H28年度		H29年度			
		予算額	決算額	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額(見込)	
	財源内訳	事業費 A	8,314	5,922	10,281	5,697	10,281	9,275	8,134
		国庫支出金	1,820	-	1,820	-	1,820	2,050	-
		市債	0	-	0	-	0	0	-
		その他特財	6,494	-	8,461	-	8,461	7,225	-
	一般財源	0	-	0	-	0	0	-	
人件費** B			6,021	6,021	6,323	6,323	6,323		
総コスト(A+B)			16,302	11,718	16,604	15,598	14,457		
人工(単位:人)			0.71			0.76			

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

計画 (Plan)

政策体系	政策	緑と水の豊かな環境をつくりだす
	施策	多摩丘陵の保全
	直接目標	市域に残された緑地、里山を再生、保全し、次世代に継承する
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	市民、緑地	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	保全緑地の適正な管理を進めます。	
事業の内容 (どのような業務内容で、どのような手段で実施しているか)	市民・企業・教育機関などと協働して緑地保安全管理計画を作成し、計画に基づく取組を進めることで、保全緑地の適正な管理を進めます。	
当該年度の取組内容 (第1期実施計画に記載されている具体的な当該年度の取組)	①市民とのワークショップによる緑地保安全管理計画書の作成 ②企業等の参画による緑地の保安全管理活動の推進 ③大学連携による新たな緑地管理手法等の構築に向けた取組の推進	
当初計画からの変更箇所 (上記計画に記載されている内容から変更となる取組)		

実施結果 (Do)

上記「当該年度の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った				
取組内容の実績等 (上記「当該年度の取組内容」に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	目標どおり達成できました。 ①については、市民等とのワークショップを実施し、久末イノ特別緑地保全地区の保安全管理計画を策定しました。 ②については、新たに1企業が緑地の保安全管理活動に参画しました。 ③については、連携する3大学が自然環境の保全・育成や生物多様性についての研究活動を安全に進められるよう、枯損木の除伐を実施しました。					
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1 成果指標	企業・教育機関等の参加による保全活動累計が所数	目標		4	5	箇所
	説明 企業・教育機関等との協働により保全活動を行う特別緑地保全地区等の累計箇所数	実績	4	4	5	
2 成果指標	保安全管理計画書の作成	目標		1	1	箇所
	説明 緑地保安全管理計画書作成した特別緑地保全地区等の箇所数	実績	1	1	1	
3	説明	目標				
		実績				
4	説明	目標				
		実績				

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)	特別緑地保全地区の公有化が進み、緑地の適切な保全管理が求められています。		
事業の見直し・改善内容	<input type="checkbox"/> 実施 (直近) H	年度	<input checked="" type="checkbox"/> 未実施
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載			

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. ない b. ある	a
	評価の理由	緑に対する市民ニーズは高く、市民ボランティアや企業等との協働により、緑地の保全を推進する必要があります。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	a
	評価の理由	企業等の参画への取り組みを着実にっており、参画企業等が増加しています。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	c
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性があるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	a
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	a
	評価の理由	保全管理計画の策定業務を民間に委託するなど、民間活用によりコスト削減効果が見込まれる業務については既に民間へ委託しています。	
施策への貢献度	貢献度区分	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A	市民ボランティアや企業、教育機関等との協働による緑地の維持管理活動が推進されており、施策への貢献はありました。



改善 (Action)

方向性区分		実施結果 (Do) や評価 (Check) を踏まえた今後の方向性	
今後の事業の方向性	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	I	今後も企業等の参画による緑地の保全管理活動の推進を図っていきます。

施策評価シート(第1期実施計画 総括評価)

1 施策の概要					
政策体系上の位置づけ	基本政策(1層)	市民生活を豊かにする環境づくり			
	政策(2層)	緑と水の豊かな環境をつくりだす		計画当初値(H27年)	直近実績値(H29年)
	市民実感指標	① 市内にある自然(緑地、河川など)や公園に満足している市民の割合	44.4%	46.5%	最終目標値(H37年)
		②			
施策(3層)	施策コード	施策名			
	30304000	農地の保全・活用と「農」とのふれあいの推進			
担当	組織コード	所属名			
	284200	経済労働局都市農業振興センター農地課			
関係課					
施策の概要	<p>●市内の農地面積は10年間(平成12~22年)で約18%減少しています。しかし、都市農地には、農産物の生産だけでなく、良好な景観の形成や水源の涵養などの緑地としての機能や、火災の延焼防止や一時的な避難場所などの防災機能、市民農園などのレクリエーション機能、農作業を高齢者の健康改善や障がい者の自立の支援に役立てることや、農業体験を通じて食に対する理解を深める福祉・教育機能など、多面的な機能を持っています。このような多面的な機能に着目し、市民の農業理解を促進するためのPR等、市内農地を保全・活用するための取組を推進します。</p> <p>●「農」にふれあいたいという市民はますます増えています。市民と「農」を結ぶイベント等、多くの市民に「農」との交流の場を提供することで、市内農業を理解し応援する市民を増やし、都市の中で貴重な農地の保全を図ります。</p> <p>●市民農園等の農業体験を希望する市民のニーズに対応するとともに、農地の保全と活用を図るため、さまざまな形で農業を体験できる機会を創出します。本市が開設から運営までを行う市民農園のほか、農業者や民間事業者等との連携により、利用者同士や農業者等が主体となった市民農園や体験型農園等の農業に触れる機会の充実を図ります。</p>				
直接目標	多面的な役割を果たしている貴重な農地を市民とともに継承する				

2 成果指標やその他成果などの状況と成果の分析								
実施計画に位置付けた指標名(指標の説明)				現状値(年度)	目標・実績	H28年度	H29年度	単位等
成果指標	1	生産緑地の年間新規指定面積	12,000	目標値(a)	12,000	12,000	m ²	
				実績値(b)	10,528	5,627		
	指標の説明	年度における生産緑地地区の新規指定実績 ※H26生産緑地指定面積290.7ha ※「指標達成度b」の個別設定値:11,400m ² (現状値の95%)	H26	達成率(b)/(a)	87.7%	46.9%	↑	
				指標達成度 ※2	c	d	維持	
2	防災農地の年間新規登録数	7	目標値(a)	8	8	か所		
			実績値(b)	11	9			
指標の説明	年度における防災農地の新規登録数	H26	達成率(b)/(a)	137.5%	112.5%	↑		
			指標達成度 ※1	a	a	増減		
3	市民農園等の累計面積	73,790	目標値(a)	76,600	78,000	m ²		
			実績値(b)	97,082	95,247			
指標の説明	開設・運営主体が異なるさまざまなタイプの市民農園の面積の合計	H26	達成率(b)/(a)	126.7%	122.1%	↑		
			指標達成度 ※1	a	a	増減		
4			目標値(a)					
			実績値(b)					
指標の説明			達成率(b)/(a)					
			指標達成度 ※1					
数値で把握できる補足指標(指標の説明)				実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1	指標の説明			実績				
				実績				
2	指標の説明			実績				
				実績				
定性的な成果 (取組を進めたことで発現した数値では測れない効果などについて記載)		<p>●市民農園等は、本市が管理する市民農園では募集定員を超える応募があるなど市民ニーズが高く、「農」の理解促進及び市民生活に潤いをもたらす効果があると考えます。</p> <p>●生産緑地の指定によって、環境保全、景観機能、防災など多面的機能を有する都市農地の減少が緩和されました。</p>						
指標等の成果分析 (指標の目標値達成を阻む外的要因等を含めて記載)		<p>●生産緑地地区の新規指定面積について、市街化区域内の農地面積が平成4年指定開始当初と比較し49%まで減少している中、500m²を超える農地の大半がすでに生産緑地地区に指定されている状況や、新規指定受付期間の平成29年3月下旬~4月下旬は、生産緑地法等の改正を見据え、動向を静観する傾向が見受けられたため、申請が少なく、新規指定面積が成果目標を下回ったと思われる。今後は、生産緑地地区の指定面積要件の緩和などによる拡大を図っていきます。</p> <p>●市民農園等は、4農園が開園し、園主の都合で2園が開園したことにより、累計面積は減少しましたが目標は達成しました。</p>						

※1 指標達成度の目安【a. 目標値以上(100%以上)、b. 現状値以上~目標値未満、c. 目標達成率60%以上~現状値未満、d. 目標達成率60%未満】
 ※2 指標達成度の目安【a. 目標値以上(100%以上)、b. 個別設定値(「指標の説明」欄に記載)以上~目標値未満、c. 目標達成率60%以上~個別設定値未満、d. 目標達成率60%未満】

3 施策を構成する主な事務事業の評価

番号	事務事業コード 事務事業名	サービス分類	事務事業の概要 (簡潔に記載)	主な取組の実績	事業費(千円)		事業の達成度	施策への貢献度	今後の事業の方向性
					予算額	決算額			
					H27年度				
					H28年度				
					H29年度(※決算額は見込)				
1	30304010 農環境保全・活用事業	その他	良好な農環境を保全するとともに、都市農業を振興し、多面的な農地の活用を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> ●里地里山・農業ボランティア育成講習の開催(48回実施) ●都市農業に関するイベント等の実施(52回実施) ●生産緑地地区の指定の推進(5,627㎡指定) ●防災農地の登録の推進(9箇所登録) 	9,594	9,329	3	B やや貢献している	II 改善しながら継続
					9,882	9,436			
					9,606	8,811			
2	30304020 農業体験提供事業	その他	農業者と連携して市民が「農」にふれる場づくりを推進します。	<ul style="list-style-type: none"> ●市民農園の管理運営及び体験型農園、市民ファーマーミング農園の普及、運営支援(4園新規開設) ●「(仮称)井田中ノ町地域交流農園」の暫定開園に向けた調整の実施 	7,543	6,723	3	B やや貢献している	II 改善しながら継続
					8,392	7,874			
					5,796	5,741			
3	30304030 市民・「農」交流機会推進事業	イベント等	農業イベント開催などにより、市民が「農」を知る機会を提供します。	<ul style="list-style-type: none"> ●花と緑の市民フェアの開催による市民と農との交流の場の提供(45,000人) ●各種「農」イベントの開催による地産地消の推進(12回農産物直売会開催) 	2,562	2,562	3	B やや貢献している	I 現状のまま継続
					3,063	3,063			
					3,438	10,655			
4									
5									

4 施策の達成状況

施策の達成状況 (指標等の成果を中心に施策を構成する事務事業の評価等から総合的に評価)	区分	選択区分	達成状況区分を選択した理由
		A. 順調に推移した (目標を達成した) B. 一定の進捗があった (目標未達成のものがあるが一定の進捗があった) C. 進捗が遅れた (現状を下回るものが多くあった) D. 進捗は大幅に遅れた (現状を大幅に下回った)	B

5 今後の方向性

今後の事業構成の妥当性 (手段は妥当か?)	区分	選択区分	「事業構成の妥当性を選択した理由」及び「今後の方向性」
		I. 効果的な事業構成である (現状のまま継続する) II. 概ね効果的な構成である (一部見直し等の余地がある) III. あまり効果的な事業構成でない (見直し等の余地が大きい) IV. 事業構成に問題がある (抜本的な見直し等が必要である)	II

平成29年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				実施計画の記載			
	30304010	農環境保全・活用事業				有			
担当	所属コード	所属名							
	284200	経済労働局都市農業振興センター農地課							
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)				
	—	—	その他	—	—				
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他								
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等) 生産緑地法、川崎市生産緑地地区事務取扱要綱、川崎市市民防災農地登録実施要綱 等								
総合計画と連携する計画等	都市計画マスタープラン、緑の基本計画、産業振興プラン、農業振興計画、情報化推進プラン								
行財政改革プログラムに関連する課題名	改革項目			課題名					
予決算 (単位:千円)	年度	H27年度		H28年度		H29年度			
		予算額	決算額	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額(見込)	
	財源内訳	事業費 A	9,594	9,329	9,882	9,436	9,882	9,606	8,811
		国庫支出金	0	-	0	-	0	0	-
		市債	0	-	0	-	0	0	-
		その他特財	767	-	767	-	767	767	-
	一般財源	8,827	-	9,115	-	9,115	8,839	-	
人件費※ B			32,309	32,309	27,706	27,706	27,706		
総コスト(A+B)			42,191	41,745	37,588	37,312	36,517		
人工(単位:人)			3.81		3.33				

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

計画 (Plan)

政策体系	政策 施策	緑と水の豊かな環境をつくりだす 農地の保全・活用と「農」とのふれあいの推進
	直接目標	多面的な役割を果たしている貴重な農地を市民とともに継承する
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	市民、市内農業者、市内農地	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	良好な農環境を保全するとともに、都市農業を振興し、多面的な農地の活用を図ります。	
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような手段で実施しているか)	一定要件を満たす農地の生産緑地への追加指定や、大震災時の一時避難場所となる市民防災農地の登録を推進するとともに、遊休農地の解消・発生防止に係る啓発活動を行い、多面的な機能を持つ農地の保全を図ります。また、都市農業の振興を推進するため、大学や黒川地区農業者等との連携を図るほか、農業情報センターを拠点に市民が農業へ親しみ理解を深めるため、農業情報の発信等を行います。	
当該年度の取組内容 (第1期実施計画に記載されている具体的な当該年度の取組)	①生産緑地地区の指定の推進 ②遊休農地の解消・発生防止に係る啓発活動の実施 ③市民防災農地の登録の推進 ④里地里山用地の整備・管理、里地里山等利活用実践活動による人材育成 ⑤明治大学農学部と本市による黒川地域連携協議会の運営と専門部会による連携の推進 ⑥ホームページでの情報発信によるグリーン・ツーリズムの推進 ⑦大型農産物直売所「セレサモス」と連携した都市農業の振興	
当初計画からの変更箇所 (上記計画に記載されている内容から変更となる取組)		

実施結果 (Do)

上記「当該年度の取組内容」に対する達成度	4	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり	4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った			
取組内容の実績等 (上記「当該年度の取組内容」に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	①生産緑地地区の新規指定面積について、市街化区域内の農地面積が平成4年指定開始当初と比較し49%まで減少している中、500㎡を超える農地の大半がすでに生産緑地地区に指定されている状況や、新規指定受付期間の平成29年3月下旬～4月下旬は、生産緑地法等の改正を見据え、動向を静観する傾向が見受けられたため、申請が少なく、新規指定面積が成果目標を下回ったと思われる。今後は、生産緑地地区の指定面積要件の緩和などによる拡大を図っていきます。					
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1 活動指標	里地里山・農業ボランティア育成講習の開催数	目標	47	50	回	
	説明 里地里山等利活用実践活動による人材育成としての農業ボランティア育成講習の開催回数	実績	46	44		
2 活動指標	都市農業に関するイベント等の実施数	目標	45	45	回	
	説明 大型農産物直売所「セレサモス」内の農業情報センターにおける、都市農業の振興に資するイベント等の実施回数	実績	46	52		
3 成果指標	生産緑地地区の新規指定面積	目標	12,000	12,000	㎡	
	説明 新規で生産緑地の指定をした面積	実績	8,060	10,528		
4 成果指標	防災農地新規登録数	目標	8	8	箇所	
	説明 新規で防災農地として登録した場所の数	実績	14	11		

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)	市内農地が減少を続ける中で、農業生産だけでなく、環境保全、景観形成、防災等、多面的機能を有する農地の保全・活用の重要性が高まっています。
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 29 年度 <input type="checkbox"/> 未実施
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直しした履歴も記載できる場合は記載	H29年度:生産緑地法の改正を踏まえ、生産緑地地区の指定面積の要件緩和や指定基準の見直し等関係部局と検討を重ね、制度改正を行いました。 H28年度:里地里山・農業ボランティア育成講習会の履修期間は1年間であったが、28年度から履修した効果を発揮するため履修内容を見直し、履修期間を2年間としました。

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. ない b. ある	a
	評価の理由	・防災農地については、災害時の一時避難場所になるなど重要な役割があることから引き続き登録を推進していく必要があります。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由	・指標分類2及び4において目標値を上回っている一方で、目標値を下回った指標分類3については、生産緑地地区の面積要件の緩和や指定基準の見直し等により、今後は成果を高めることができる余地があります。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	a
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性があるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	b
	評価の理由	事業の性質上、民間の活用は難しいが、JAセレサ川崎・農業者と連携しながら事務の手続きの見直しや事業の質について高めることができる余地があります。	
施策への貢献度	貢献度区分	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	B	市内農地が減少する中で、多面的機能を有する農地の保全を図るとともに、明治大学、JAセレサ川崎、農業者と連携しながら農地の活用を図る等、一定程度の施策への貢献はありました。



改善 (Action)

方向性区分		実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性	
今後の事業の方向性	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	II	・生産緑地地区の指定や防災農地登録については、多面的機能を有する農地の保全を図る上で重要であり、また都市空間における貴重なオープンスペースとしての役割への期待は高まると考えられるため、引き続き事業内容を維持することとします。

平成29年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				実施計画の記載			
	30304020	農業体験提供事業				有			
担当	所属コード	所属名							
	284100	経済労働局都市農業振興センター農業振興課							
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)				
	—	—	その他	—	—				
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input checked="" type="checkbox"/> その他								
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等) 特定農地貸付法、川崎市市民農園事業実施要綱、川崎市地域交流農園実施要綱								
総合計画と連携する計画等	都市計画マスタープラン、緑の基本計画、産業振興プラン、農業振興計画								
行財政改革プログラムに関連する課題名	改革項目			課題名					
	2(13) 市民サービス等の再構築			8 市民農園の開設形態及び利用者負担の見直し					
予決算 (単位:千円)	年度	H27年度		H28年度		H29年度			
		予算額	決算額	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額(見込)	
	事業費 A	7,543	6,723	8,392	7,874	4,378	5,796	5,741	
	財源内訳	国庫支出金	0	-	0	-	0	0	-
		市債	0	-	0	-	0	0	-
		その他特財	3,912	-	3,992	-	4,177	5,796	-
		一般財源	3,631	-	4,400	-	201	0	-
人件費※ B			7,208	7,208	8,320	8,320	8,320		
総コスト(A+B)			15,600	15,082	12,698	14,116	14,061		
人工(単位:人)			0.85		1				

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

計画 (Plan)

政策体系	政策 施策 直接目標	緑と水の豊かな環境をつくりだす 農地の保全・活用と「農」とのふれあいの推進 多面的な役割を果たしている貴重な農地を市民とともに継承する
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	市民、農業者、農業体験の提供を行う事業者	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	市民が農とふれあう、市民の農業理解が深まる、農地が保全される、農業経営が安定する(体験型農園)、企業収益が向上することを目指します。	
事業の内容 (どのような業務内容で、どのような手段で実施しているか)	川崎市市民農園(市開設・管理型)の管理運営を行うとともに、地域交流農園(市開設・利用者組合管理型)及び市民ファーム農園(農地所有者開設・管理型)並びに体験型農園(農園利用方式、農家管理型)を開設するため、農地所有者へ制度の普及・啓発を行います。	
当該年度の取組内容 (第1期実施計画に記載されている具体的な当該年度の取組)	①川崎市市民農園(市が開設から運営まで行う)の管理運営 ②体験型農園、市民ファーム農園(農業者が開設、農作業を指導)の普及・運営支援 ③川崎市市民農園(5農園)から利用者組合が管理運営を行う地域交流農園への移行 ④(仮称)井田中ノ町地域交流農園の利用開始	
当初計画からの変更箇所 (上記計画に記載されている内容から変更となる取組)	●川崎市市民農園から利用者組合が管理運営を行う地域交流農園への移行準備	

実施結果 (Do)

上記「当該年度の取組内容」に対する達成度	4	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った				
取組内容の実績等 (上記「当該年度の取組内容」に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	①川崎市市民農園について、年間を通じて適切に管理運営を行いました。 ②体験型農園について、園主の都合により2農園閉園しましたが3農園開園し、11農園となりました。市民ファーム農園について、開園予定の2農園を支援しましたが、所有者が要件を整えられず1農園の開園となりました。 ③比較的条件が整っている川崎市市民農園の土地所有者に対し、地域交流農園への移行に向けた協議を行いました。調整に時間を要し、平成31年度に1農園を地域交流農園に移行する予定です。 ④(仮称)井田中ノ町地域交流農園について、関係者との調整が難航し開園できませんでしたが、平成30年度に暫定的に開園して体制を整え、平成33年度までに開園予定です。③と④により、地域交流農園の園数は1農園にとどまりました。					
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1 成果指標	地域交流農園の園数	目標		1	3	農園数
	説明 市が開設支援し、主に利用者(組合)が管理・運営を行う地域交流農園の数(累計)	実績	1	1	1	
2 成果指標	市民ファーム農園の園数	目標		2	2	農園数
	説明 農家が開設し、管理を行う「市民ファーム農園」の園数(当該年度開園数)、市は開設に向けた手続き等の支援を行う	実績	2	3	1	
3 成果指標	体験型農園の園数	目標		10	11	農園数
	説明 農家の農業経営の中で市民が農業体験できる「体験型農園」の園数(累計)、市は開設及び運営の一部支援を行う	実績	10	10	11	

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)	「農」に親しみたいとする市民のニーズは依然高い状況です。市民農園の開設を希望する農地所有者を支援する民間事業者も近年増えています。
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 29 年度 <input type="checkbox"/> 未実施
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	H29年度: 地域交流農園の貸付料の徴収と市民農園の改定した貸付料での運用を始めました。 H28年度: 地域交流農園の運営形態を見直し、利用者から貸付料2,000円/年を市が徴収することにしました。 川崎市市民農園の受益者負担の適正化・公正化を図るため、貸付料を6,000円/年から8,000円/年に改定しました。

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. ない b. ある	b
	評価の理由	平成27年施行の都市農業振興基本法で「市民農園の整備その他の農作業を体験することができる環境の整備その他の必要な施策を講ずるものとする。」とされたと共に、高いニーズを反映し、農地所有者開設・管理型の市民農園(市民ファーム農園)が増えています。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	c
	評価の理由	市民ファーム農園については地権者が要件を整えることができず、地域交流農園については農地所有者等の関係者との調整に時間を要し、目標値に届きませんでした。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	b
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	b
	評価の理由	市民農園を農地所有者等が開設することで、事業の効果を高めることができます。 ・従来型の市民農園から利用者組合が管理運営を行う地域交流農園へ移行することで、それに伴い経費の節減や良好な農園管理が見込まれます。	

施策への 貢献度	貢献度区分		上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	B	市民農園の普及により農地の保全が図られるとともに、「農」に親しみたいとする市民ニーズに応えることができることから、施策への効果が高い事業です。

改善 (Action)

今後の事業の 方向性	方向性区分		実施結果 (Do) や評価 (Check) を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	II	市民ファーム農園について、制度改正により開園しやすくなった点を含めて広報し農地所有者等への普及・啓発を行うとともに、地域交流農園については土地所有者等関係者との交渉が円滑に進むように交渉頻度や打ち合わせ内容を工夫し、開園が計画どおり進行するように着実に取り組んでいきます。

平成29年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				実施計画の記載			
	30304030	市民・「農」交流機会推進事業				有			
担当	所属コード	所属名							
	284100	経済労働局都市農業振興センター農業振興課							
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)				
	—	—	の分類	イベント等	—				
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input checked="" type="checkbox"/> その他								
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 市独自の制度								
(法令・要綱等)									
総合計画と連携する計画等	緑の基本計画、産業振興プラン、農業振興計画								
行財政改革プログラムに関連する課題名	改革項目			課題名					
予決算 (単位:千円)	年度	H27年度		H28年度		H29年度			
		予算額	決算額	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額(見込)	
	財源内訳	事業費 A	2,562	2,562	3,063	3,063	3,063	3,438	10,655
		国庫支出金	0	-	0	-	0	0	-
		市債	0	-	0	-	0	0	-
		その他特財	0	-	0	-	0	0	-
	一般財源	2,562	-	3,063	-	3,063	3,438	-	
人件費※ B			6,784	6,784	10,400	10,400	10,400		
総コスト(A+B)			9,847	9,847	13,463	13,838	21,055		
人工(単位:人)			0.8		1.25				

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

計画 (Plan)

政策体系	政策 施策 直接目標	緑と水の豊かな環境をつくりだす 農地の保全・活用と「農」とのふれあいの推進 多面的な役割を果たしている貴重な農地を市民とともに継承する
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	市民、農業者など	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	市民が「農」とふれあう、市民と農業者が交流する、市民の農業への理解が向上する、地産地消が推進されることを目指します。	
事業の内容 (どのような業務内容で、どのような手段で実施しているか)	かわさき地産地消推進協議会を主体とした各種「農」イベントや花と緑の市民フェアなど、庁内や事業者等との連携、情報共有を図りながら、効果的に事業を展開し、多くの市民に「農」との交流の場を提供していきます。	
当該年度の取組内容 (第1期実施計画に記載されている具体的な当該年度の取組)	①花と緑の市民フェアの開催(来場者数:75,000人以上) ②地産地消のイベントや料理教室等の実施による地産地消の推進	
当初計画からの変更箇所 (上記計画に記載されている内容から変更となる取組)	出店者から開催期間の人員確保や出店経費について意見があり、関係者との検討の結果、花と緑の市民フェアの開期を3日間から2日間に変更しました。 (来場者数75,000人以上)→(来場者数50,000人以上)へ変更	

実施結果 (Do)

上記「当該年度の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 4. 目標を下回った 2. 目標を上回って達成 5. 目標を大きく下回った 3. ほぼ目標どおり				
取組内容の実績等 (上記「当該年度の取組内容」に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	ほぼ目標通り達成できました。 ①の花と緑の市民フェアについては、従来の3日間から2日間に開催期間を短縮したこと、また期間中に実施していた植木の品評会が他のイベントに移行したことから、来場者数及び参加・出展者数が目標に達しませんでした。 ②の地産地消のイベントについては、事業計画以外の新規イベントに参加しました。中でも農産物直売会の開催回数においては、当初目標9回から12回の開催を行い、活動指標の目標以上の実績を挙げました。					
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1 活動指標	かわさき地産地消推進協議会の開催	目標		3	3	回
	説明 具体的な地産地消の推進手法の検討や実施・開催を行う「かわさき地産地消推進協議会」の開催回数	実績	3	3	2	
2 活動指標	農産物直売会の開催回数	目標		9	9	回
	説明 新鮮で、安全・安心な市内産農産物を求める市民ニーズへ対応するための農産物直売会の開催回数	実績	9	9	12	
3 成果指標	花と緑の市民フェアでの参加・出店者(団体・企業・個人)数	目標		39	39	区画
	説明 にぎわいを作り、市民の集客を図るための花と緑の市民フェアでの参加・出店者(団体・企業・個人)数	実績	39	37	38	
4 成果指標	花と緑の市民フェアの来場者数	目標		70,000	75,000	人
	説明 にぎわいを作り、市民の集客を図るための花と緑の市民フェアの来場者数	実績	61,000	62,000	45,000	

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)	「農」にふれあいたいとする市民のニーズは高く、市内農業を応援する市民も増加しています。一方で、農業散布や堆肥の臭気等、依然として市民の農業理解が得にくい面もあり、市民の都市農業に対する理解の促進に向け、効果的なPRを積極的に行っていく必要があります。
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 29 年度 <input type="checkbox"/> 未実施
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	H29年度:・会議等の開催について、効率的かつ効果的な開催が出来るよう関係団体等と調整を図り、開催回数に対して見直しを行った。 市民のニーズの応え、農業理解を深めるためイベントの開催を増加した。 市民フェアについて3日間の開催を2日間に変更し、経費節減を行いつつ効果的な開催を行った。

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. ない b. ある	b
	評価の理由	「農」に関心がある市民のニーズは増加傾向にあるため引き続き農業に関する理解の促進に向けて、市内産農産物直売会や農家を講師とした「かわさきそだち料理教室」の開催等によって農家と市民で交流できる活動を行っていく必要がある。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由	かわさき地産地消協議会を主体とした「農」イベントや花と緑の市民フェアなど、行政や事業者との連携を図り、多くの市民に「農」に親しむ機会を設けることにより、「農」への理解の促進が期待されます。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	a
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性があるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	b
	評価の理由	市内産農産物かわさきそだちPRキャラクター『菜果ちゃん』を使用したPR活動を行うことによって、効果的にPR活動を行うことができると期待できます。	
施策への貢献度	貢献度区分	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	B	「農」に触れ合える場を設けることにより、市民と農家が交流できる機会ができ、より市民の人に「農」に関心を持ってもらえることが期待できます。



改善 (Action)

今後の事業の方向性	方向性区分		実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	I	

平成29年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				実施計画の記載			
	30304040	都市農業価値発信事業				無			
担当	所属コード	所属名							
	284100	経済労働局都市農業振興センター農業振興課							
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)				
	—	—	その他	—					
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他								
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 市独自の制度								
(法令・要綱等)									
総合計画と連携する計画等	産業振興プラン、農業振興計画								
行財政改革プログラムに関連する課題名	改革項目			課題名					
予決算 (単位:千円)	年度	H27年度		H28年度		H29年度			
		予算額	決算額	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額(見込)	
	財源内訳	事業費 A	27,775	26,051	23,592	22,627	25,592	24,682	23,898
		国庫支出金	0	-	0	-	0	0	-
		市債	0	-	0	-	0	0	-
		その他特財	0	-	0	-	0	0	-
	一般財源	27,775	-	23,592	-	25,592	24,682	-	
人件費※ B			9,413	9,413	8,320	8,320	8,320		
総コスト(A+B)			33,005	32,040	33,912	33,002	32,218		
人工(単位:人)			1.11		1				

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

計画 (Plan)

政策体系	政策	緑と水の豊かな環境をつくりだす
	施策	農地の保全・活用と「農」とのふれあいの推進
	直接目標	多面的な役割を果たしている貴重な農地を市民とともに継承する
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	市民、農業者など	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	市民の農業理解が向上する、本市農業を応援する市民が増える、農業者の営農環境が改善することを目指します。	
事業の内容 (どのような業務内容で、どのような手段で実施しているか)	多様な主体との連携を図る中で、ホームページ・メールマガジン等発信対象を明確にした効果的で積極的な情報発信を行うことで、市内農業や市内産農産物、さらには農地の持つ多面的機能について、PRを図っていきます。	
当該年度の取組内容 (第1期実施計画に記載されている具体的な当該年度の取組)	多面的な機能に着目し、ホームページ等での情報発信による、市民の農業理解を促進するためのPR	
当初計画からの変更箇所 (上記計画に記載されている内容から変更となる取組)		

実施結果 (Do)

上記「当該年度の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った				
取組内容の実績等 (上記「当該年度の取組内容」に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	ほぼ目標どおり達成できました。 市民向け情報誌「菜果ちゃんNEWS」を年2回発行、農家向け情報誌「農の達人」を年1回発行し、「農」に対する情報発信を計3回行いました。また、メールマガジンによる発信を20回発信した他、ホームページによる「農」情報を発信し、農業理解の促進を行いました。メールマガジンについて、平成28年度から29年度へかけては、年100人増加を目標としているところ、195人の新規登録増加があり、事実上は目標を上回って達成しております。					
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1 活動指標	農政情報誌の発行	目標		3	3	回
	説明 市内農業に興味を持ち、応援する市民の数を増やすために行う農政情報誌(菜果ちゃんニュース)と、農業者への情報周知のために行う農政情報誌(農の達人)の発行回数	実績	4	3	3	
2 成果指標	メールマガジン「かわさきの農業」登録者数	目標		3,100	3,200	人
	説明 市内農業に興味を持ち、応援する市民の数を増やすために行うメールマガジンの登録者数	実績	3,037	3,142	2,451	
3	説明	目標				
		実績				
4	説明	目標				
		実績				

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)	市内農業を応援する市民も増加する一方で、農業散布や堆肥の臭気等、依然、市民の農業理解が得られにくい面もあり、市民の「農」に対する理解の促進に向け、効果的なPRを積極的に行っていく必要があります。
事業の見直し・改善内容	<input type="checkbox"/> 実施 (直近) H 年度 <input checked="" type="checkbox"/> 未実施
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. ない b. ある	a
	評価の理由	メールマガジン登録人数は徐々に増えていることから、市民から「農」に関する情報が必要とされていることがわかります。市が「農」に関する情報を、メールマガジンで発信することによって、迅速に情報提供を行うことができます。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由	「農」に関する情報誌や、メールマガジンの登録案内のチラシを農業関係事務所等に配架する他、イベントにおける配布も行うことによって、メールマガジンの登録を促し、登録人数の増加につながっております。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	a
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性があるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	b
	評価の理由	より効果的な情報誌・チラシの作成や、メールマガジンの操作方法等を担当職員が研修を受けることによって、作成技能が向上する他、SNSや、CMSのアプリ連携の導入によって少ない人員コストで効果的に情報を発信することが予想されます。	
施策への貢献度	貢献度区分	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	B	メールマガジンの登録案内のチラシを関係施設に配架するとともにイベント時に配布も行い、市民へのPRを推進し、メールマガジン登録人数の増加につながりました。併せて、情報誌による広報により、より多くの人に「農」に関するイベントや情報の発信を行い、市民の農業理解促進に貢献しました。



改善 (Action)

方向性区分		実施結果 (Do) や評価 (Check) を踏まえた今後の方向性	
今後の事業の方向性	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	II	市内農業を応援する市民も増加する一方で、農業散布や臭気等による苦情など、依然として農業理解を得られにくい面もあるため、市民の「農」に対する理解促進に向け、引き続き効果的なPRを行っていく必要があります。

施策評価シート(第1期実施計画 総括評価)

1 施策の概要					
政策体系上の位置づけ	基本政策(1層)	市民生活を豊かにする環境づくり			
	政策(2層)	緑と水の豊かな環境をつくりだす	計画当初値(H27年)	直近実績値(H29年)	最終目標値(H37年)
	市民実感指標	① 市内にある自然(緑地、河川など)や公園に満足している市民の割合	44.4%	46.5%	50.0%
		②			
施策(3層)	施策コード	施策名			
	30305000	多摩川の魅力を活かす総合的な取組の推進			
担当	組織コード	所属名			
	531970	建設緑政局緑政部多摩川施策推進課			
関係課	建設緑政局総務部企画課				
施策の概要	<p>●「川崎の母なる川・多摩川」は、古くから市民に関わり川崎の骨格を形づくり、まちを発展させてきた歴史的・文化的資源であるとともに、首都圏における貴重な自然環境と多様な生命が共存する空間です。市民共有の大切な財産である多摩川を改めて見つめ直し、市民に身近で憩える環境やより豊かな河川空間の創出をめざします。</p> <p>●多摩川河川敷の運動施設等は、さまざまなスポーツ・レクリエーションの場として利用されています。より多くの市民が集う場として快適な河川空間の創出や運動施設の充実、利便性の向上を図ります。</p> <p>●流域自治体や市民団体などの協働により、多摩川を活用した環境学習や体験活動の場としての活用を図ります。また、多摩川の魅力を発掘に努めるとともに、その魅力を次世代の子どもたちへ継承し、より多くの市民に多摩川の持つ魅力を感じとれるようなさまざまな取組を進めます。</p>				
直接目標	多くの市民が「憩い」「遊び」「学ぶ」多摩川の魅力を高める				

2 成果指標やその他成果などの状況と成果の分析								
実施計画に位置付けた指標名(指標の説明)			現状値(年度)	目標・実績	H28年度	H29年度	単位等	
成果指標	1	多摩川に魅力を感じ、利用したことのある人の割合 指標の説明 市民アンケート(無作為抽出3,000人)において、多摩川を「利用したことがあり、魅力を感じる」と回答した人の割合	37.7	目標値(a) 実績値(b)	38 40.1	38 35.6	%	
			H27	達成率(b/a) 指標達成度 ※1	105.5% a	93.7% c	↑ 増減	
	2	指標の説明		目標値(a) 実績値(b)				
				達成率(b/a) 指標達成度 ※1				
3	指標の説明		目標値(a) 実績値(b)					
			達成率(b/a) 指標達成度 ※1					
4	指標の説明		目標値(a) 実績値(b)					
			達成率(b/a) 指標達成度 ※1					
数値で把握できる補足指標(指標の説明)				実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1	指標の説明	渡し場イベントの参加者数		実績	1,600	2,350	450	人
		年度における渡し場イベントの参加者数の集計		実績				
2	指標の説明			実績				
				実績				
定性的な成果 (取組を進めたことで発現した数値では測れない効果などについて記載)		<p>●多摩川の利活用による水辺の賑わい創出に向け、民間活力による更なる価値の向上として「水辺で乾杯 in 川崎」や「XTERRA川崎」等を実行するとともに、既存イベント等の工夫や連携による効果の増幅等を行いました。</p> <p>●昭和61年度に創設され、平成29年度で32回目の開催となる、「手づくり郷土(ふるさと)賞【大賞部門】」を川崎市と、二ヶ領せせらぎ館を管理運営しているNPO法人多摩川エコミュージアムが受賞しました。</p>						
指標等の成果分析 (指標の目標値達成を阻む外的要因等を含めて記載)		<p>●アンケートについて、区別のクロス集計の結果をみると、多摩川に面している中原区、高津区、多摩区は利用率が高いことがわかりました。麻生区、宮前区といった多摩川に面していない区は利用率が低い傾向がありました。川崎区、幸区も利用率が低い傾向があり、魅力を感じない方の意見では、区内に多摩川緑地の施設が少ない、アクセスが悪い、治安が心配などの意見が見受けられました。</p> <p>●多摩川を利用したイベント等は、参加者数が天候等の気象条件に左右されやすく、平成29年度は渡し場イベントなどのイベント開催時の天候に恵まれなかったことや、台風による施設未利用日の長期化等が重なったことなどが、アンケート結果が対前年減となった外的要因と考えられます。</p>						

※1 指標達成度の目安【a. 目標値以上(100%以上)、b. 現状値以上～目標値未満、c. 目標達成率60%以上～現状値未満、d. 目標達成率60%未満】

※2 指標達成度の目安【a. 目標値以上(100%以上)、b. 個別設定値(「指標の説明」欄に記載)以上～目標値未満、c. 目標達成率60%以上～個別設定値未満、d. 目標達成率60%未満】

3 施策を構成する主な事務事業の評価									
番号	事務事業コード 事務事業名	サービス分類	事務事業の概要 (簡潔に記載)	主な取組の実績	事業費(千円)		事業の達成度	施策への貢献度	今後の事業の方向性
					予算額	決算額			
					H27年度				
					H28年度				
					H29年度(※決算額は見込)				
1	30305010 多摩川プラン推進事業	その他	多摩川河川敷の運動施設や便利施設の再整備、利用のマネーアップに取り組むなど、多摩川が市民に身近な存在になるよう魅力向上の取組を進めます。	●「新多摩川プラン」に基づく多摩川の魅力を活かす総合的な取組の推進 ●上平間・古市場地区の整備 ●サイクリングコースの延伸整備 ●イベント等の開催	82,251	75,051	3	A 貢献している	II 改善しながら継続
					91,680	85,009			
					106,478	42,369			
2	30305020 多摩川市民協働推進事業	参加・協働の場	市民との協働や流域自治体との連携により環境学習や体験活動の取組を進め、さまざまな機会を通して多摩川の魅力発信します。	●水辺の楽校の活動支援 ●流域の自治体との協働、連携の取組の推進 ●二ヶ領せせらぎ館や大師河原水防センターによる情報発信拠点の取組の推進	19,363	17,475	3	A 貢献している	I 現状のまま継続
					18,939	17,989			
					18,245	17,603			
3									
4									

4 施策の達成状況			
施策の達成状況 (指標等の成果を中心に施策を構成する事務事業の評価等から総合的に評価)	区分	選択区分	達成状況区分を選択した理由
		A. 順調に推移した (目標を達成した) B. 一定の進捗があった (目標未達成のものがあるが一定の進捗があった) C. 進捗が遅れた (現状を下回るものが多くあった) D. 進捗は大幅に遅れた (現状を大幅に下回った)	B

5 今後の方向性			
今後の事業構成の妥当性 (手段は妥当か?)	区分	選択区分	「事業構成の妥当性を選択した理由」及び「今後の方向性」
		I. 効果的な事業構成である (現状のまま継続する) II. 概ね効果的な構成である (一部見直し等の余地がある) III. あまり効果的な事業構成でない (見直し等の余地が大きい) IV. 事業構成に問題がある (抜本的な見直し等が必要である)	II

平成29年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				実施計画の記載			
	30305010	多摩川プラン推進事業				有			
担当	所属コード	所属名							
	531970	建設緑政局緑政部多摩川施策推進課							
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)				
	—	—		その他	政策推進計画等(策定・進行管理)				
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他								
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等)								
総合計画と連携する計画等	都市計画マスタープラン、環境基本計画、水環境保全計画、緑の基本計画、新多摩川プラン、スポーツ推進計画								
行財政改革プログラムに関連する課題名	改革項目			課題名					
	1(4) 市民サービス向上に向けた民間部門の活用			17 丸子橋周辺エリアの各施設における管理運営体制の構築					
予決算 (単位:千円)	年度	H27年度		H28年度		H29年度			
		予算額	決算額	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額(見込)	
	財源内訳	事業費 A	82,251	75,051	91,680	85,009	118,343	106,478	42,369
		国庫支出金	0	—	0	—	0	0	—
		市債	0	—	18,000	—	40,000	36,000	—
		その他特財	5,000	—	5,000	—	5,000	5,000	—
		一般財源	77,251	—	68,680	—	73,343	65,478	—
	人件費* B			34,090	34,090	54,330	54,330	54,330	
総コスト(A+B)			125,770	119,099	172,673	160,808	96,699		
人工(単位:人)			4.02		6.53				

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

計画 (Plan)

政策体系	政策	緑と水の豊かな環境をつくりだす
	施策	多摩川の魅力を活かす総合的な取組の推進
	直接目標	多くの市民が「憩い」「遊び」「学ぶ」多摩川の魅力を高める
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	市民	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	多摩川の水環境資源を活かして、憩いの場、遊びの場となる施設の充実を進め、多摩川の魅力向上を図ります。	
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような手段で実施しているか)	「新多摩川プラン」に基づき、多摩川緑地の運動施設や便益施設の充実、再整備を行うとともに、サイクリングコースの充実や延伸などに取り組みます。	
当該年度の実績内容 (第1期実施計画に記載されている具体的な当該年度の実績)	①「新多摩川プラン」に基づく多摩川の魅力を活かす総合的な取組の推進 ②上平間・古市場地区の整備 ・野球場やサッカー場などの施設の再整備に向けた事業推進 ③サイクリングコースの延伸整備 ④多摩川バーベキュー広場(二子橋)の適正な運営 ⑤バーベキュー対策の検討(丸子橋周辺など) ⑥イベント等の開催 ・川崎国際多摩川マラソン ・水辺の安全教室 ・シンポジウム など	
当初計画からの変更箇所 (上記計画に記載されている内容から変更となる取組)		

実施結果 (Do)

上記「当該年度の実績内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った				
取組内容の実績等 (上記「当該年度の実績内容」に対し、「数値等により具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	目標どおり達成できました。 ②については、上平間駐車場の拡充を行いました。 ③については、稲城市への延伸に向けたサイクリングコースの舗装を行いました。 ⑥については、「水辺で乾杯in川崎」や「XTERRA川崎」等の新たなイベントを行いました。					
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1	説明	目標				
		実績				
2	説明	目標				
		実績				

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 <small>(国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)</small>	優れたポテンシャルである多摩川の魅力を最大限活かしたまちづくりが期待されています。
事業の見直し・改善内容	<input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 27 年度 <input type="checkbox"/> 未実施
具体的な見直し・改善内容 <small>※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載</small>	平成27年度:「新多摩川プラン」を策定

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. ない b. ある	b
	評価の理由	多摩川のポテンシャルを最大限に活用する取組が求められているため、民間活力を導入した付加価値の高い、より開かれた利活用を通じて地域のまちづくりを推進する必要があります。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由	活動指標は設定していませんが、民間活力を導入することで、事業の成果をさらに高めることができる余地があります。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	b
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	b
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	a
	評価の理由	平成27年度に策定した「新多摩川プラン」を踏まえ、更なる魅力向上を図るため、民間活力を導入した賑わいの場の創出を検討する必要があります。	

施策への貢献度	貢献度区分	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A



改善 (Action)

今後の事業の方向性	方向性区分	実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	II

平成29年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				実施計画の記載			
	30305020	多摩川市民協働推進事業				有			
担当	所属コード	所属名							
	531970	建設緑政局緑政部多摩川施策推進課							
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)				
	—	—		参加・協働の場	—				
実施形態	<input type="checkbox"/> 市が直接実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input checked="" type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他								
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input type="checkbox"/> 市独自の制度								
(法令・要綱等)									
総合計画と連携する計画等	都市計画マスタープラン、緑の基本計画、新多摩川プラン、文化芸術振興計画								
行財政改革プログラムに関連する課題名	改革項目			課題名					
予決算 (単位:千円)	年度	H27年度		H28年度		H29年度			
		予算額	決算額	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額(見込)	
	事業費 A	19,363	17,475	18,939	17,989	18,939	18,245	17,603	
	財源内訳	国庫支出金	0	-	0	-	0	0	-
		市債	0	-	0	-	0	0	-
		その他特財	888	-	856	-	856	803	-
		一般財源	18,475	-	18,083	-	18,083	17,442	-
人件費※ B			18,232	18,232	26,957	26,957	26,957		
総コスト(A+B)			37,171	36,221	45,896	45,202	44,560		
人工(単位:人)			2.15			3.24			

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

計画 (Plan)

政策体系	政策	緑と水の豊かな環境をつくりだす
	施策	多摩川の魅力を活かす総合的な取組の推進
	直接目標	多くの市民が「憩い」「遊び」「学ぶ」多摩川の魅力を高める
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	市民	
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	多摩川を、子どもたちの豊かな心と身体を育成する場、市民や各種団体が交流を進める場として活用し、多摩川の魅力を感じてもらえるようにします。	
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような手段で実施しているか)	新多摩川プランに基づき、市民活動のネットワークを活かすとともに、国や近隣自治体、庁内関係部局などと連携を図って、歴史的資源の活用、環境学習、流域連携・協働事業の取組を推進します。	
当該年度の取組内容 (第1期実施計画に記載されている具体的な当該年度の取組)	①水辺の楽校の活動支援 ②流域自治体との協働、連携の取組の推進 ・水辺の楽校(世田谷区、大田区) ・渡しの復活(世田谷区、大田区) ③ニヶ領せせらぎ館や大師河原水防センターによる情報発信拠点の取組の推進	
当初計画からの変更箇所 (上記計画に記載されている内容から変更となる取組)		

実施結果 (Do)

上記「当該年度の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った				
取組内容の実績等 (上記「当該年度の取組内容」に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	目標どおり達成できました。 ①については、各校合計36回の支援を行いました。 ②については、世田谷区、大田区の水辺の学校と交流を行い、また、渡し場復活事業のため世田谷区と大田区との連携を図りました。 ③については、多摩川の生き物展示、環境学習、情報誌の発行を行いました。					
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1	説明	目標				回
		実績				
2	説明	目標				
		実績				
3	説明	目標				
		実績				
4	説明	目標				
		実績				

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)	
事業の見直し・改善内容	<input type="checkbox"/> 実施 (直近) H 年度 <input checked="" type="checkbox"/> 未実施
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. ない b. ある	a
	評価の理由	多摩川に関連する事業に対する市民の関心が高まっており、引き続き事業を推進することによって「ふるさとの川・多摩川」を定着させていくことができます。歴史・文化・自然等の資源を活かして、より魅力的で豊かな多摩川を育てていくためには、国や流域自治体、市民団体等と連携を進め、協働の取組を推進していく必要があります。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由	環境学習、イベントへの関心の高さや水辺の楽校の活発な活動状況等、多摩川の魅力発信が徐々に市民へ浸透しているといえます。市民や流域自治体等とともに役割と責任を担い協働することで効果をさらに高めることができます。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	c
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	a
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	c
	評価の理由	二ヶ領せせらぎ館と大師河原水防センターの運営や環境学習、イベント等を委託しており、コストの削減につながっています。今後もさらなる効率化を図るための検討を行っていきます。	
施策への貢献度	貢献度区分	上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由	
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A	市民、国、近隣自治体、庁内関係部署等と連携を進め、各種の取組において多摩川が持つさまざまな資源を活用することで、多摩川の潜在的な価値を引き出し、市民へ魅力を発信することができました。



改善 (Action)

方向性区分		実施結果 (Do) や評価 (Check) を踏まえた今後の方向性	
今後の事業の方向性	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	I	「ふるさとの川」として多摩川を市民に愛される場とするためには、継続した活動が必要であり、「新多摩川プラン」に基づき、行政と市民が一体となり協働で取組を進めていきます。

平成29年度 事務事業評価シート

事業の概要

事務事業	事務事業コード	事務事業名				実施計画の記載			
	30305030	多摩川緑地維持管理事業				無			
担当	所属コード	所属名							
	531970	建設緑政局緑政部多摩川施策推進課							
実施期間	事業開始年度	事業終了年度	事務・サービス等の分類	分類1(市民サービス等)	分類2(内部事務)				
	—	—	施設の管理・運営	—					
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他								
実施根拠	<input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等) 河川法、都市公園法、道路交通法、都市公園条例等								
総合計画と連携する計画等	都市計画マスタープラン、環境基本計画、緑の基本計画、新多摩川プラン、スポーツ推進計画								
行政改革プログラムに関連する課題名	改革項目				課題名				
予決算 (単位:千円)	年度	H27年度		H28年度		H29年度			
		予算額	決算額	予算額	決算額	計画事業費	予算額	決算額(見込)	
	財源内訳	事業費 A	152,927	141,651	239,809	154,040	279,382	278,955	371,638
		国庫支出金	0	-	0	-	0	0	-
		市債	2,000	-	65,000	-	91,000	121,000	-
		その他特財	4,043	-	5,405	-	5,405	5,396	-
	一般財源	146,884	-	169,404	-	182,977	152,559	-	
人件費※ B			1,950	1,950	93,850	93,850	93,850		
総コスト(A+B)			241,759	155,990	373,232	372,805	465,488		
人工(単位:人)			0.23		11.28				

※ 人件費は、各年度の予算における職員1人当たり人件費に、各年度の人工を乗じて算出した参考値です。

計画 (Plan)

政策体系	政策 緑と水の豊かな環境をつくりだす 施策 多摩川の魅力を活かす総合的な取組の推進 直接目標 多くの市民が「憩い」「遊び」「学ぶ」多摩川の魅力を高める
事業の対象 (事業の対象となる人、物)	多摩川緑地、マラソンコース、サイクリングコースを利用する市民、自治会、学校及びイベント参加者など
事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか)	多摩川緑地、マラソンコース、サイクリングコースを適正に維持管理し、安全安心かつ快適に利用(安らげる)できる環境をつくります。
事業の内容 (どういった業務内容で、どのような手段で実施しているか)	施設の適正管理の観点から、河川パトロール、施設の補修、定期的な草刈を行うとともに、マラソンコース等の利用調整を行う取組を進めます。
当該年度の取組内容 (第1期実施計画に記載されている具体的な当該年度の取組)	①多摩川河川敷の維持管理 ②多摩川河川敷の公園施設の整備 ③サイクリング・マラソンコースの走路周辺の維持管理 ④多摩川管理事務所の移転(御幸公園)
当初計画からの変更箇所 (上記計画に記載されている内容から変更となる取組)	

実施結果 (Do)

上記「当該年度の取組内容」に対する達成度	3	1. 目標を大きく上回って達成 4. 目標を下回った 2. 目標を上回って達成 5. 目標を大きく下回った 3. ほぼ目標どおり				
取組内容の実績等 (上記「当該年度の取組内容」に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)	目標どおり達成できました ①については、多摩川緑地の除草・剪定及び清掃を行いました。 ②については、野球場バックネットの更新・グラウンドの補修を行いました。 ③については、除草・剪定等を行いました。 ④については、平成28年12月に御幸公園への移転を完了しました。					
指標分類	数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明)	目標・実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
1	説明	目標				
		実績				
2	説明	目標				
		実績				
3	説明	目標				
		実績				
4	説明	目標				
		実績				

評価 (Check)

事業を取り巻く社会環境の変化 <small>(国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など)</small>	多摩川緑地はスポーツやイベント、環境学習の場として幅広い年代の利用があります。マラソン大会の参加者数は年々増加するなど多摩川緑地の維持管理に対する市民ニーズは増加しています。
事業の見直し・改善内容	<input type="checkbox"/> 実施 (直近) H 年度 <input checked="" type="checkbox"/> 未実施
具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載	

評価項目		評価	
必要性	【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？	a. 薄れていない b. 薄れている	a
	【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？	a. ない b. ある	a
	評価の理由	マラソンや野球・サッカーでの利用が頻繁にあり、今後も増加することが予測されることから、今後も多摩川緑地の維持管理を推進していく必要があります。	
有効性	【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？	a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない	b
	評価の理由	取組内容は達成しています。利用も増加傾向にあるため成果は徐々に上がっているものと考えられます。	
効率性	【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	a
	【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性があるか？	a. 可能性はない b. 可能性はある	a
	【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？	a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み	a
	評価の理由	概ね効率的に業務を執行しています。マラソンコース・サイクリングコースの利用受付業務について、今年度、利用許可証の押印手続きに庁内通送便を活用することにより、事務改善を行いました。	

施策への貢献度	貢献度区分		上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由
	A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い	A	多摩川緑地野球・サッカーほかのスポーツやイベント、環境学習の場として幅広い年代の利用があります。マラソン大会は平成24年度に37,724人、平成25年度に37,853人、平成26年度に57,000人、平成28年度に61,985人の参加があるなど各種団体から多くの利用があるなど、多くの市民が「憩い」「遊び」「学ぶ」多摩川の魅力を高めるためには必要不可欠な事業です。



改善 (Action)

今後の事業の方向性	方向性区分		実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性
	I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了	I	多摩川緑地は環境学習や屋外スポーツ等多様な役割を持ち、個人の利用に加えイベントやスポーツ大会などに数多く利用されています。利用申請増加に伴う事務処理の増加など課題となる可能性があることから今後課題を整理し、検討していきます。